

岡山市

後期高齢者実態把握調査報告書

- 概要版 -

平成 31 年 3 月

岡山市

目 次

I	調査の目的と結果の活用方法	1
II	調査の実施概要	2
1	調査の内容	2
2	調査票の配布と回答状況について	2
3	分析および電算処理に関する注意事項について	3
III	後期高齢者の調査結果	4
1	健康的な高齢者と虚弱な高齢者の差異	4
2	後期高齢者における男女間の社会参加意識の差異（一般高齢者）	7
3	後期高齢者の外出環境や地域環境への困りごと	9
4	後期高齢者における在宅生活の意向と必要な生活支援サービス	12
5	後期高齢者の介護保険サービス未利用者の状況	15
6	調査結果からみたデイサービス利用希望者の状況	16
IV	後期高齢者からみた各小学校区の地域特性	20
①	高齢化率の状況	20
②	要支援・要介護認定率の状況	22
③	健康的な高齢者の状況	24
④	介護予防事業対象者の状況	26
⑤	生活支援事業対象者の状況	28
⑥	物忘れリスク者の状況	30
⑦	趣味のある方の状況	32
⑧	あっ晴れ！もも太郎体操参加者の状況	34

I 調査の目的と結果の活用方法

後期高齢者実態把握調査業務は、「第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」の推進にあたり、健康的な高齢者、要支援者等の健康自立度と日常生活等の実態を把握することで、閉じこもり等の何らかの支援を要する高齢者を早期に発見し、住民主体の介護予防活動へつなげることを目的とします。

併せて、介護の実需要とサービス提供状況の現状と課題を日常生活圏域（中学校区）ごとに整理し、真に必要とされる介護サービス量の検討や将来推計を行うための基礎資料とし、これに基づく多様なサービスの創出に向けた仕掛けづくりを行うなど本市の介護予防・日常生活支援総合事業を一層推進させるとともに、本市の地域包括ケアシステムを深化させることを目的としています。

II 調査の実施概要

1 調査の内容

調査対象者、調査方法、調査票の設計は以下のとおりです。

調査対象者	一般高齢者 (市内在住の75歳以上で介護認定を受けていない高齢者)	57,737人	
	要支援1・2、要介護1認定者 (市内在住の75歳以上で上記認定を受けている高齢者)	14,163人	
調査方法	平成30年7月31日～8月13日、対象者に郵送にて配布・回収		
調査票の設計	設 問	一般高齢者	軽度認定者
	1 あなたのご家族や生活状況について	10設問	10設問
	2 からだを動かすことについて	13設問	13設問
	3 食べることについて	9設問	9設問
	4 毎日の生活について	23設問	23設問
	5 地域での活動について	7設問	7設問
	6 たすけあいについて	7設問	7設問
	7 健康について	13設問	13設問
	8 支援・サービスの利用状況・ニーズについて	5設問	9設問
	設問数合計	87設問	91設問

※軽度認定者：本報告書では要支援1・2、要介護1認定者の調査対象者を称しています。

2 調査票の配布と回答状況について

本調査の回答状況は以下のとおりです。(対象者数は平成30年6月30日付介護保険認定者データによる)

調査別回答状況 (市全域)

調査票	対象者数 (人)	配布数 (人)	有効回答者数 (人)	回答率 (%)	信頼度95%の サンプル数(人)
後期高齢者実態把握調査 (一般高齢者)	57,737	20,177	16,888	83.7	382
後期高齢者実態把握調査 (軽度認定者)	14,163	9,823	7,430	75.6	374

調査別回答状況（福祉事務所所管区域別）

【一般高齢者】

福祉事務所所管区域	対象者数 (人)	配布数 (人)	有効回答者数 (人)	回答率 (%)	信頼度95%の サンプル数(人)
北区中央	13,219	3,903	3,238	83.0	373
北区北	9,653	3,910	3,286	84.0	369
中区	12,085	3,449	2,876	83.4	372
東区	9,515	3,926	3,310	84.3	369
南区西	5,861	2,581	2,159	83.6	361
南区南	7,404	2,408	2,019	83.8	365

【軽度認定者】

福祉事務所所管区域	対象者数 (人)	配布数 (人)	有効回答者数 (人)	回答率 (%)	信頼度95%の サンプル数(人)
北区中央	3,489	2,291	1,731	75.6	346
北区北	2,813	1,972	1,521	77.1	338
中区	2,629	1,787	1,327	74.3	335
東区	2,182	1,586	1,194	75.3	327
南区西	1,368	1,015	755	74.4	300
南区南	1,682	1,172	902	77.0	313

3 分析および電算処理に関する注意事項について

分析にあたっては、回答結果から判定した後期高齢者像（健康的な高齢者、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者）や、基本チェックリストの判定を用いた運動機能低下、低栄養、口腔機能低下、閉じこもり、物忘れ、うつ傾向、老研指標を用いたIADL低下の判定結果等から行いました。

なお、集計処理した集計表やグラフの%表示は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

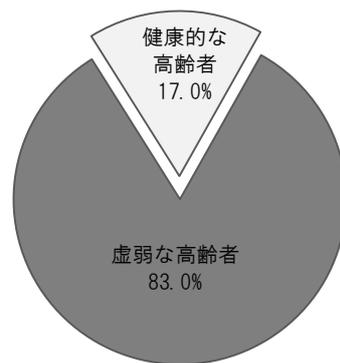
Ⅲ 後期高齢者の調査結果

■ 後期高齢者像の用語解説

健康的な高齢者	病気があっても、自身の身体能力により自立した日常生活を営む高齢者をいう。
虚弱な高齢者	要介護2以上の状態ではないものの、心身機能の低下や病気などのため、日常生活の一部に介助・支援・見守りを必要とする高齢者をいう。
介護予防事業対象者	虚弱な高齢者から要介護状態になることを予防するために、介護予防事業の参加勧奨の対象となる高齢者をいう。
生活支援事業対象者	日常生活の中で家事の手伝いや見守り等のサービスが必要な高齢者をいう。

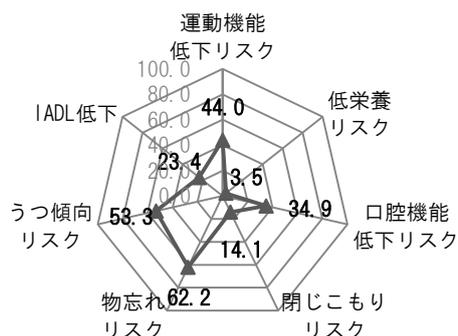
1 健康的な高齢者と虚弱な高齢者の差異

● 調査年度（2018年度）における各後期高齢者の全体像は、「健康的な高齢者」は17.0%、介護予防事業対象者や生活支援事業対象者を含む「虚弱な高齢者」は83.0%と前者に比べて約5倍となっています。



一般高齢者+軽度認定者
n=24,318

● 虚弱な高齢者のリスク指標の該当割合をみると、「物忘れリスク」(62.2%)が最も高く、次いで「うつ傾向リスク」(53.3%)、「運動機能低下リスク」(44.0%)、「口腔機能低下リスク」(34.9%)、「IADL低下」(23.4%)、「閉じこもりリスク」(14.1%)、「低栄養リスク」(3.5%)の順となっています。

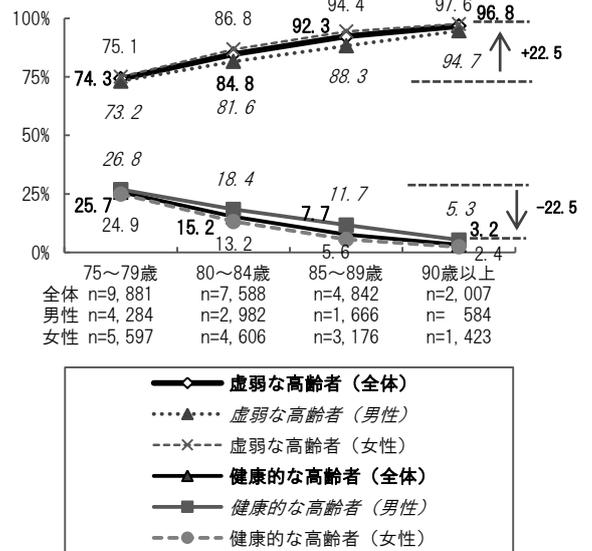


- 加齢（5歳階級別）に伴う健康的な高齢者の変化をみると、「75～79歳」（25.7%）から「90歳以上」（3.2%）にかけて、22.5ポイントと大きく減少しています。

男女別では全年齢階級で男性の割合が女性を上回っています。

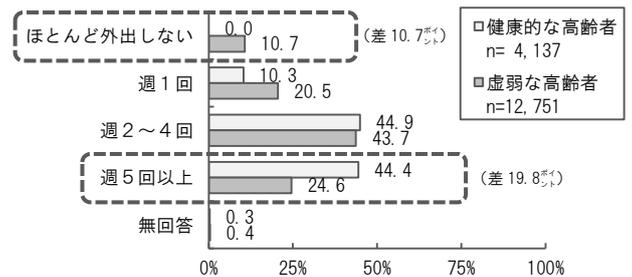
- 反対に虚弱な高齢者の変化では「75～79歳」（74.3%）から「90歳以上」（96.8%）にかけて、22.5ポイントと大きく増加しています。男女別では全年齢階級で女性の割合が男性を上回っています。

《性別・年齢階級別の後期高齢者像》



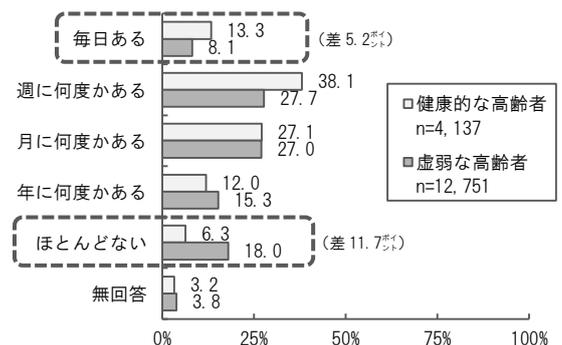
- 健康的な高齢者と虚弱な高齢者の外出頻度の差をみると、「ほとんど外出しない」は健康的な高齢者が0.0%、虚弱な高齢者が10.7%で、虚弱な高齢者の方が10.7ポイント高く、「週5回以上」は健康的な高齢者が44.4%、虚弱な高齢者が24.6%で、虚弱な高齢者の方が19.8ポイント低くなっています。

《後期高齢者像別の外出頻度》

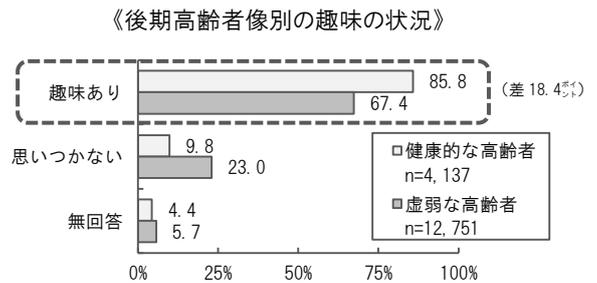


- 健康的な高齢者と虚弱な高齢者の友人・知人と会う頻度の差をみると、「ほとんどない」は健康的な高齢者が6.3%、虚弱な高齢者が18.0%で、虚弱な高齢者の方が11.7ポイント高く、「毎日ある」は健康的な高齢者が13.3%、虚弱な高齢者が8.1%で、健康的な高齢者の方が5.2ポイント低くなっています。

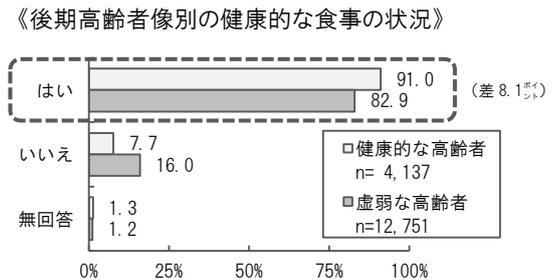
《後期高齢者像別の友人・知人と会う頻度》



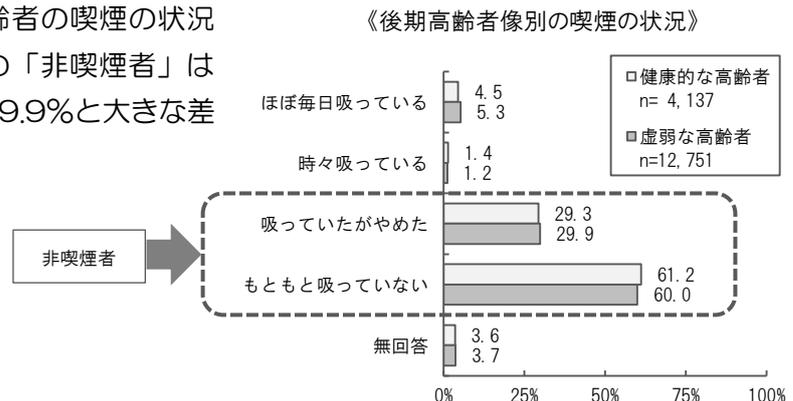
- 健康的な高齢者と虚弱な高齢者の趣味の状況をみると、「趣味あり」は健康的な高齢者では85.8%、虚弱な高齢者では67.4%となり、前者が18.4ポイント上回っています。



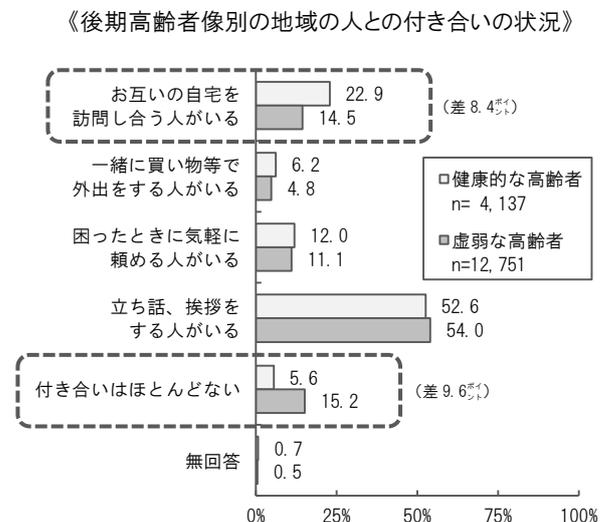
- 健康的な高齢者と虚弱な高齢者の健康的な食事の状況をみると、「野菜料理と主菜を両方も毎日1回は食べている」と回答した健康的な高齢者は91.0%、虚弱な高齢者は82.9%となり、前者が8.1ポイント上回っています。



- 健康的な高齢者と虚弱な高齢者の喫煙の状況をみると、健康的な高齢者の「非喫煙者」は90.5%、虚弱な高齢者では89.9%と大きな差はありませんでした。

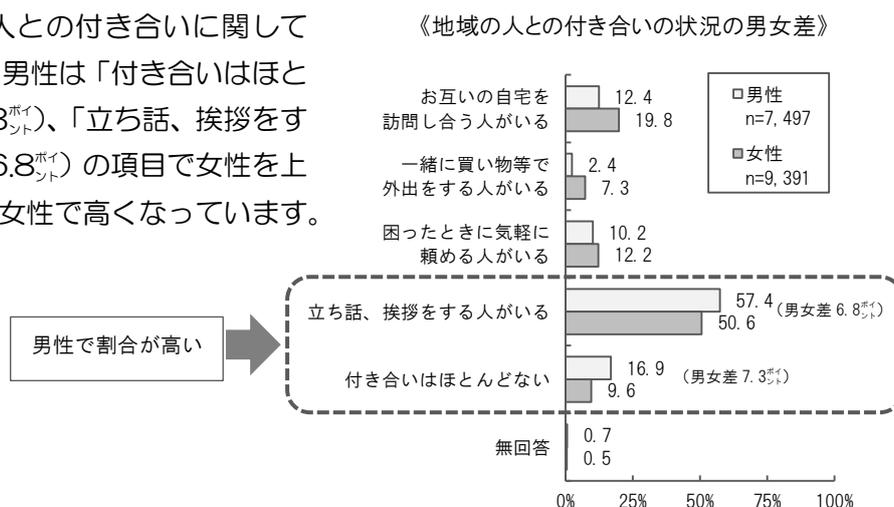


- 健康的な高齢者と虚弱な高齢者の地域の人との付き合いの状況の差をみると、「付き合いはほとんどない」は健康的な高齢者が5.6%、虚弱な高齢者が15.2%で、虚弱な高齢者の方が9.6ポイント高く、「お互いの自宅を訪問し合う人がいる」は健康的な高齢者が22.9%、虚弱な高齢者が14.5%で、虚弱な高齢者の方が8.4ポイント低くなっています。

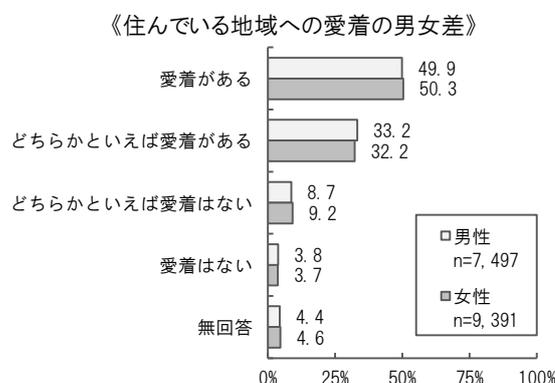


2 後期高齢者における男女間の社会参加意識の差異（一般高齢者）

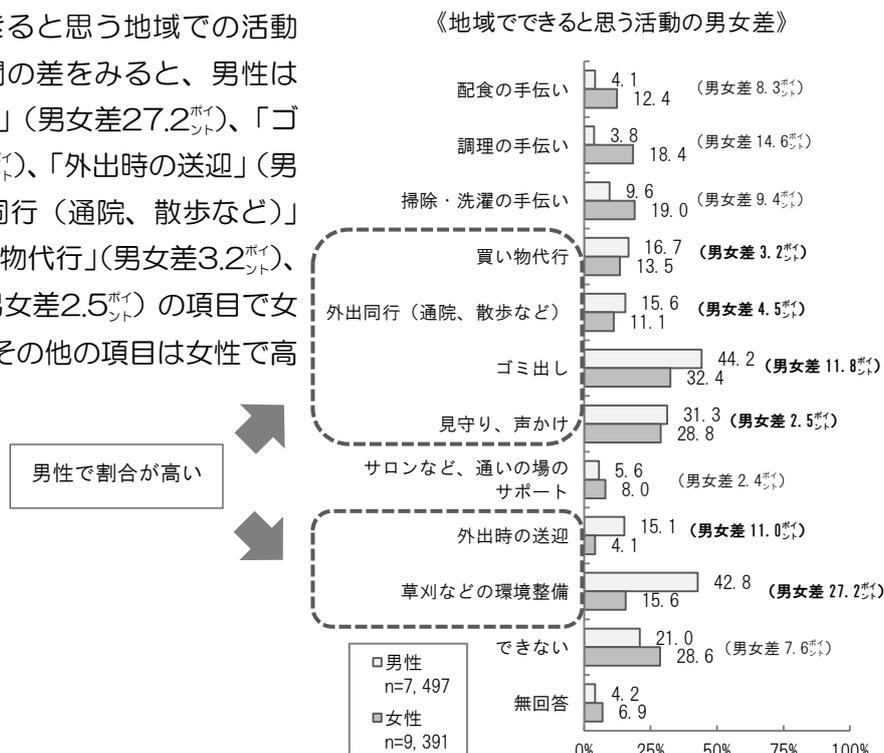
- 一般高齢者の地域の人との付き合いに関して男女間の差をみると、男性は「付き合いはほとんどない」（男女差7.3ポイント）、「立ち話、挨拶をする人がある」（男女差6.8ポイント）の項目で女性を上回り、その他の項目は女性で高くなっています。



- 一般高齢者の住んでいる地域への愛着に関して男女間の差をみると、男女ともに「愛着がある」から「愛着がない」までの項目に大きな差はありませんでした。



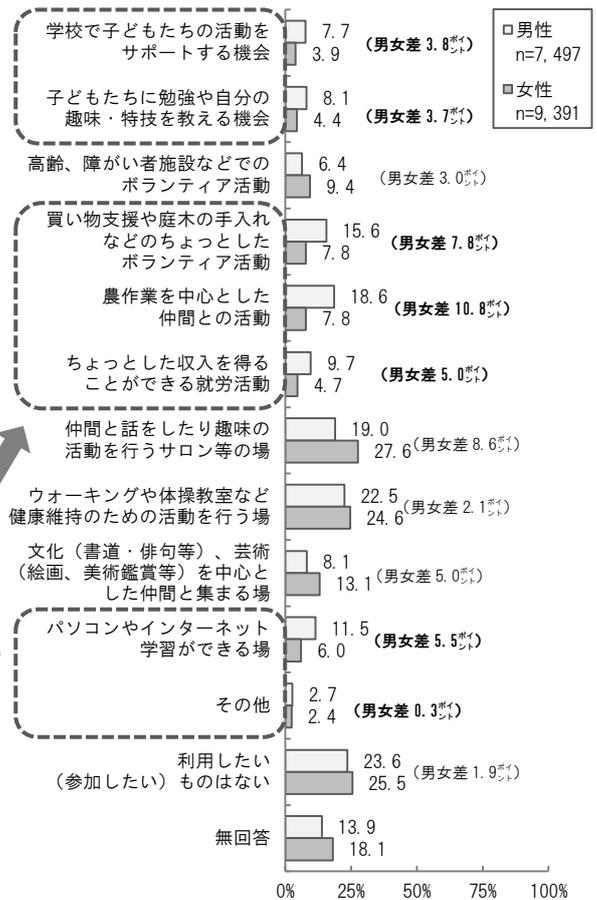
- 一般高齢者が提供できると思う地域での活動別割合に関して男女間の差をみると、男性は「草刈などの環境整備」（男女差27.2ポイント）、「ゴミ出し」（男女差11.8ポイント）、「外出時の送迎」（男女差11.0ポイント）、「外出同行（通院、散歩など）」（男女差4.5ポイント）、「買い物代行」（男女差3.2ポイント）、「見守り、声かけ」（男女差2.5ポイント）の項目で女性を上回っています。その他の項目は女性で高くなっています。



●利用したい（参加したい）と思う活動の場や参加の機会に関して男女間の差をみると、男性は「農作業を中心とした仲間との活動」（男女差10.8^{ポイント}）、「買い物支援や庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動」（男女差7.8^{ポイント}）、「パソコンやインターネット学習ができる場」（男女差5.5^{ポイント}）、「ちょっとした収入を得ることができる就労活動」（男女差5.0^{ポイント}）、「学校で子どもたちの活動をサポートする機会」（男女差3.8^{ポイント}）、「子どもたちに勉強や自分の趣味・特技を教える機会」（男女差3.7^{ポイント}）、「その他」（男女差0.3^{ポイント}）の項目で女性を上回っています。

男性で割合が高い

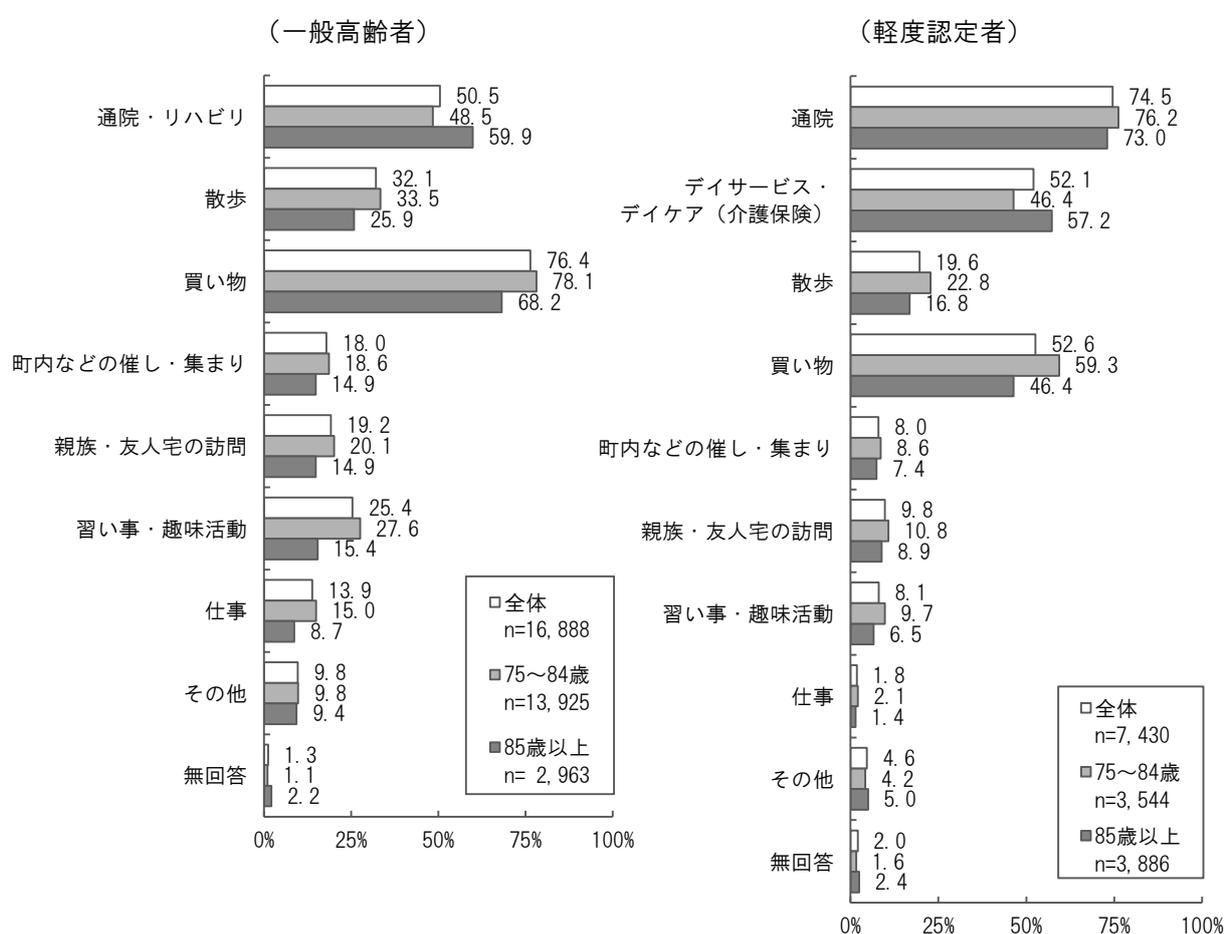
《利用したい(参加したい)と思う活動の場や参加の機会の男女差》



3 後期高齢者の外出環境や地域環境への困りごと

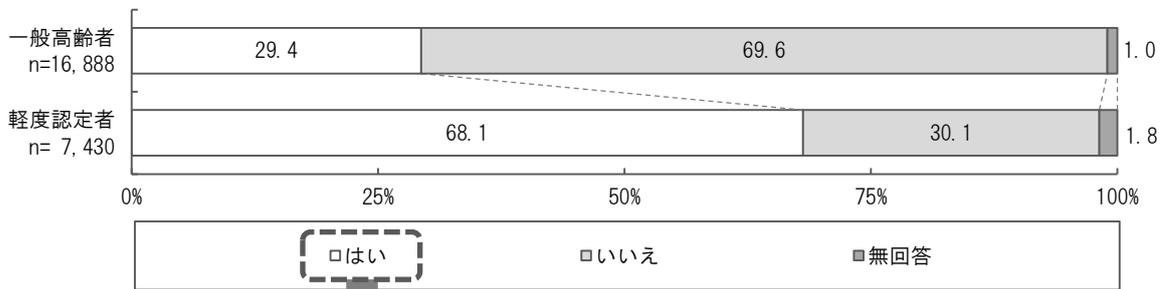
- 一般高齢者の外出の主な目的について、「買い物」(76.4%)が最も高く、次いで「通院・リハビリ」(50.5%)、「散歩」(32.1%)、「習い事・趣味活動」(25.4%)となっています。
- 一方、軽度認定者は「通院」(74.5%)が最も高く、次いで「買い物」(52.6%)、「デイサービス・デイケア(介護保険)」(52.1%)、「散歩」(19.6%)となっています。
- 年齢階級別の差をみると、一般高齢者では「習い事・趣味活動」の乖離が最も大きく、75～84歳(27.6%)が85歳以上(15.4%)を12.2ポイント上回っています。軽度認定者では「買い物」の乖離が最も大きく、75～84歳(59.3%)が85歳以上(46.4%)を12.9ポイント上回っています。

《年齢階級別外出の主な目的》

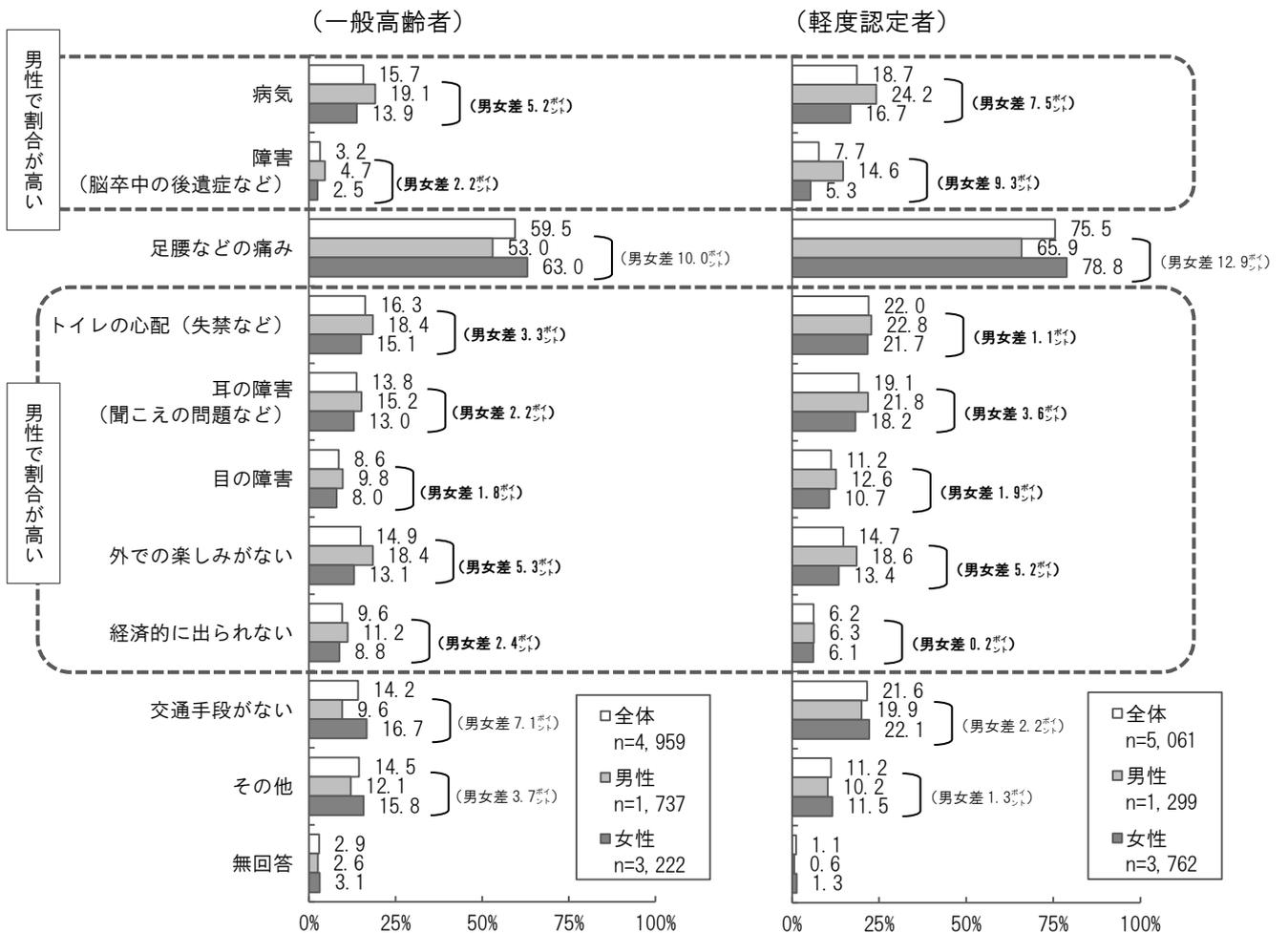


- 外出を控えている一般高齢者は 29.4%、軽度認定者は 68.1%となっています。
- 一般高齢者の外出を控えている理由をみると、「足腰などの痛み」(59.5%) が最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」(16.3%)、「病気」(15.7%) となっています。また、男女差が大きい項目をみると「足腰などの痛み」(男女差 10.0^{ポイント})、「交通手段がない」(男女差 7.1^{ポイント}) では男性より女性で高く、「外での楽しみがない」(男女差 5.3^{ポイント}) では女性より男性で高くなっています。
- 一方、軽度認定者は「足腰などの痛み」(75.5%) が最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」(22.0%)、「交通手段がない」(21.6%) となっています。また、男女差が大きい項目をみると「足腰などの痛み」(男女差 12.9^{ポイント}) では男性より女性で高く、「障害(脳卒中の後遺症など)」(男女差 9.3^{ポイント})、「病気」(男女差 7.5^{ポイント}) では女性より男性で高くなっています。

《外出を控えているか》

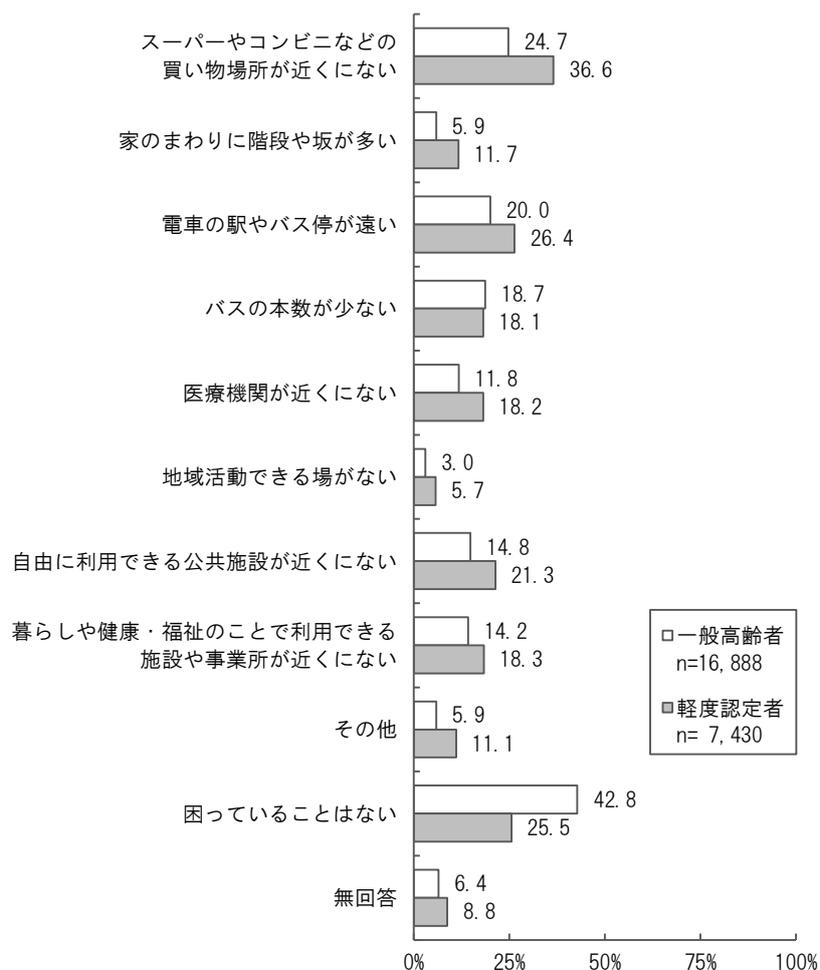


《外出を控えている理由の男女差》



- 一般高齢者の現在、住んでいる環境で困っていることや不満な点を見ると、「困っていることはない」(42.8%) が最も高く、次いで「スーパーやコンビニなどの買い物場所が近くにない」(24.7%)、「電車の駅やバス停が遠い」(20.0%) となっています。
- 一方、軽度認定者は「スーパーやコンビニなどの買い物場所が近くにない」(36.6%) が最も高く、次いで「電車の駅やバス停が遠い」(26.4%)、「困っていることはない」(25.5%) となっています。

《現在、住んでいる環境で困っていることや不満な点》



4 後期高齢者における在宅生活の意向と必要な生活支援サービス

- 一般高齢者の介護サービスの利用と住まいについての考えを家族形態別にみると、いずれも「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」と考えている割合が最も高くなっています。また、1人暮らしでは、「専門的な介護が受けられる住まい（サービス付き高齢者向け住宅、老人ホームなど）に移りたい（引っ越したい）」（11.3%）が他の家族形態の方に比べ高くなっています。

単位：%

在宅生活の意向	家族形態 1人暮らし	夫婦2人暮らし		息子・娘との 2世帯	その他世帯
		配偶者が 65歳以上	配偶者が 64歳以下		
介護が必要になっても、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	6.8	14.3	20.7	19.2	15.4
介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい	40.5	47.8	39.1	44.8	45.1
専門的な介護が受けられる住まい（サービス付き高齢者向け住宅、老人ホームなど）に移りたい（引っ越したい）	11.3	7.0	2.9	4.7	4.4
介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	15.5	12.1	8.7	10.6	13.0

※各調査で家族形態ごとにみた在宅生活の意向の割合です。

※回答選択肢を抽出して記載しているため、合計しても100%にはなりません。

- 一般高齢者の介護サービスの利用と住まいについての考えを居住環境別にみると、いずれの居住環境でも「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」と考えている割合が最も高くなっています。一方で、民間賃貸住宅（集合住宅）の方は、「専門的な介護が受けられる住まい（サービス付き高齢者向け住宅、老人ホームなど）に移りたい（引っ越したい）」（19.7%）が他の居住環境の方に比べ高くなっています。

単位：%

居住環境	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸 住宅	民間賃貸 住宅 (一戸建て)	民間賃貸 住宅 (集合住宅)	借家
在宅生活の意向						
介護が必要になっても、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	12.1	12.7	9.8	6.5	4.5	7.8
介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい	49.6	42.6	36.6	44.6	28.4	36.1
専門的な介護が受けられる住まい（サービス付き高齢者向け住宅、老人ホームなど）に移りたい（引っ越したい）	6.6	10.5	8.2	5.4	19.7	11.7
介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	16.3	19.8	23.5	20.7	23.6	19.5

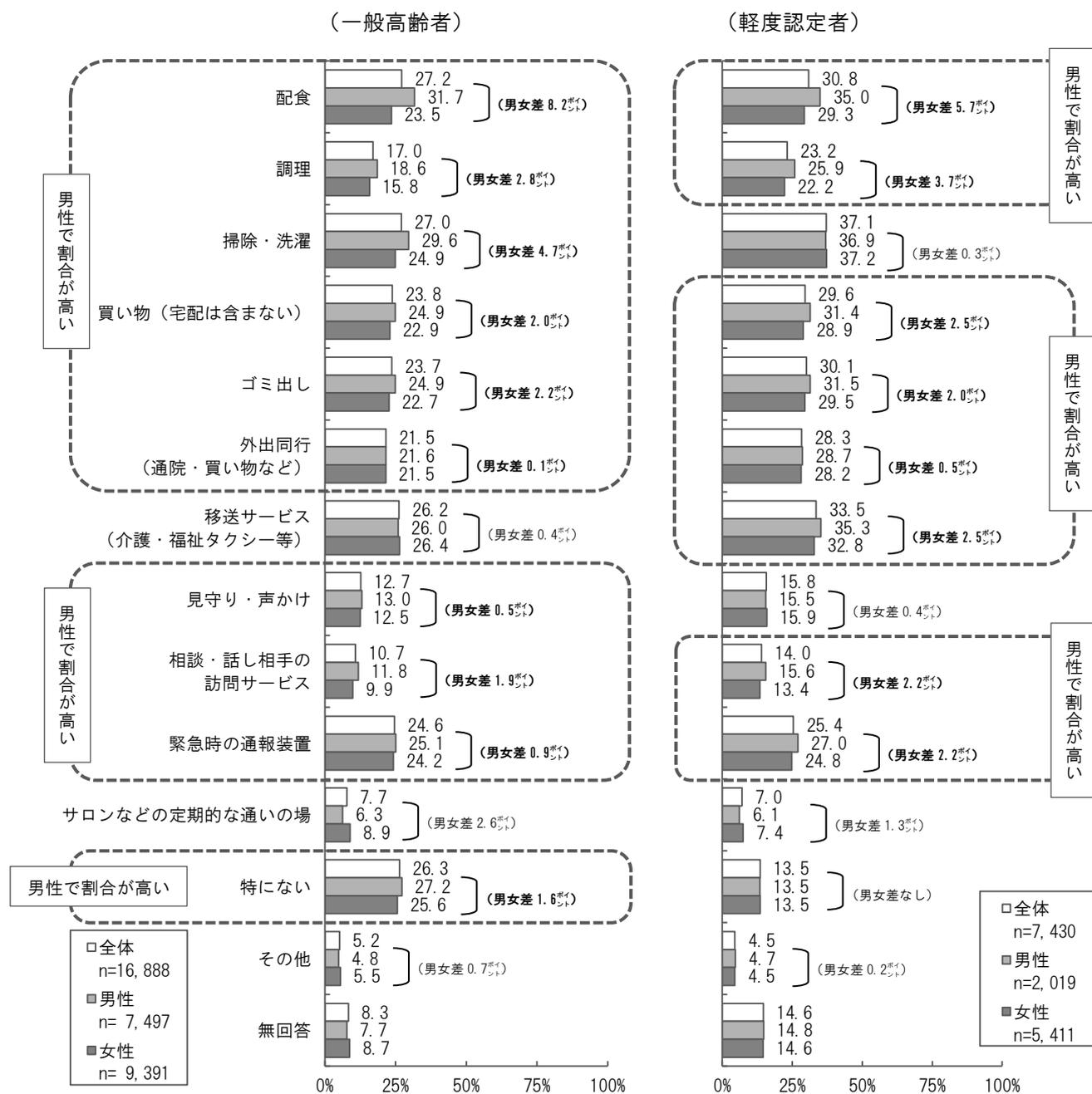
※各調査で居住環境ごとにみた在宅生活の意向の割合です。

※回答選択肢を抽出して記載しているため、合計しても100%にはなりません。

●在宅で生活をするために必要なサービスについて、一般高齢者は「配食」(27.2%)が最も高く、次いで「掃除・洗濯」(27.0%)、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(26.2%)となっています。また、男女別にみると「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」を除くサービスでは、男性の割合が女性を上回っています。

●一方、軽度認定者は「掃除・洗濯」(37.1%)が最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(33.5%)、「配食」(30.8%)となっています。また、男女別にみると「掃除・洗濯」、「見守り・声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」を除くサービスでは、男性の割合が女性を上回っています。

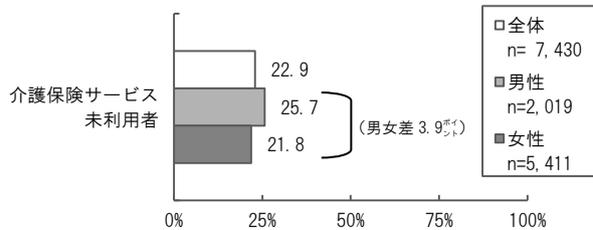
《在宅で生活をするために必要なサービスの男女差》



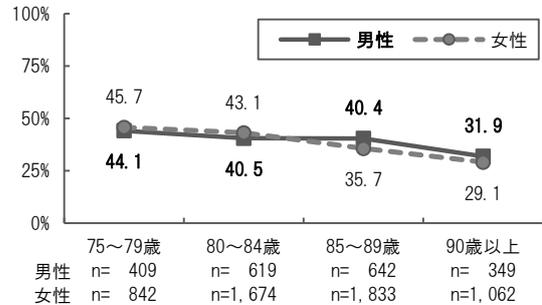
5 後期高齢者の介護保険サービス未利用者の状況

- 軽度認定者の調査結果から後期高齢者における「介護保険サービス未利用者」の割合をみると、22.9%となっています。また、男女間の差を見ると男性（25.7%）が女性（21.8%）より3.9ポイント高く、年齢階級別では男女とも加齢にともない割合は低下しています。

《男女別介護保険サービス未利用者の状況》

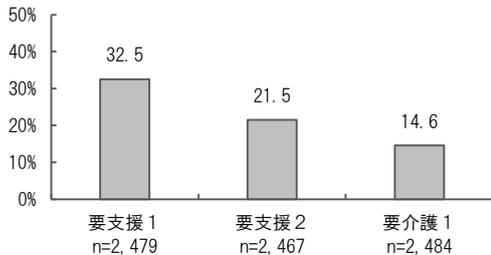


《年齢階級別介護保険サービス未利用者の状況》



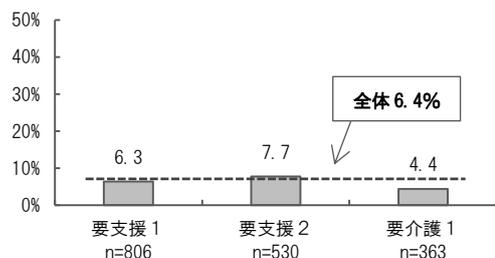
- 要介護度別にみると、「要支援1」（32.5%）で未利用者割合が最も高く、次いで「要支援2」（21.5%）、「要介護1」（14.6%）となっています。

《要介護度別介護保険サービス未利用者の状況》



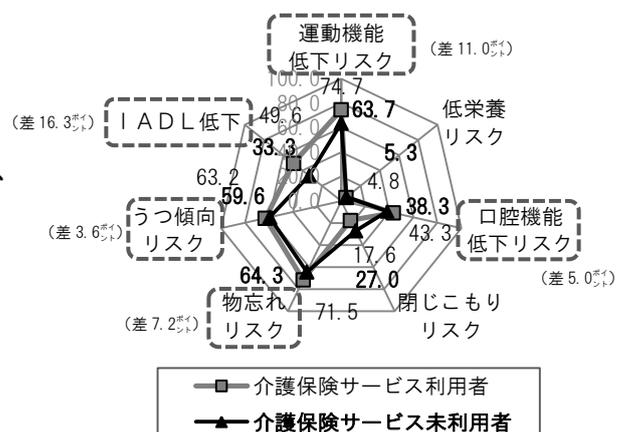
- 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するためと回答した介護保険サービス未利用者は全体で6.4%おり、要介護度別にみると「要支援2」（7.7%）が最も高く、次いで「要支援1」（6.3%）、「要介護1」（4.4%）となっています。

《住宅改修、福祉用具貸与・購入のみ利用の介護保険サービス未利用者の要介護度別状況》



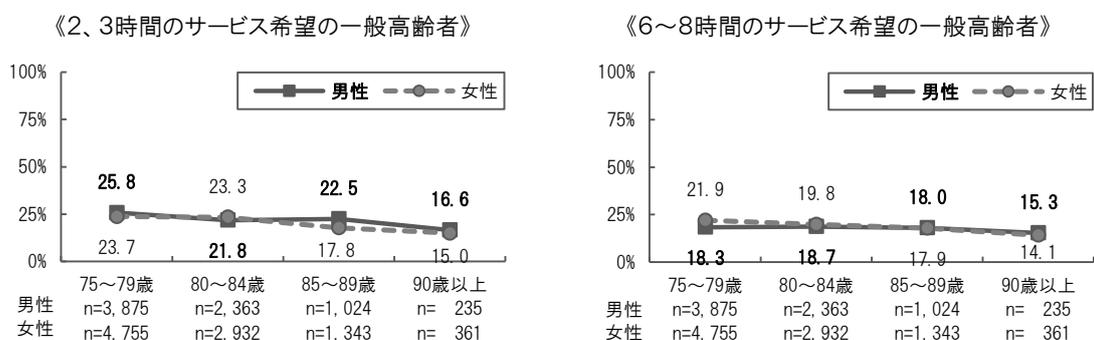
- 介護保険サービス利用者と、介護保険サービス未利用者の7項目リスク指標における差をみると、「IADL低下」（差16.3ポイント）、「運動機能低下リスク」（差11.0ポイント）、「物忘れリスク」（差7.2ポイント）、「口腔機能低下リスク」（差5.0ポイント）、「うつ傾向リスク」（差3.6ポイント）の5項目で、介護保険サービス利用者の該当割合が介護保険サービス未利用者の割合を上回っています。

《リスク該当状況》

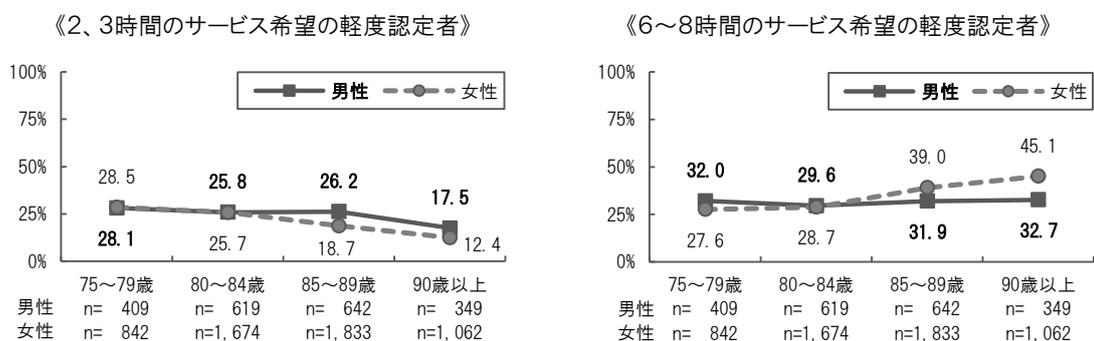


6 調査結果からみたデイサービス利用希望者の状況

- 一般高齢者のデイサービス（通所サービス）の利用希望を短時間・長時間別にみると、『2、3時間のサービス希望』では、「80～84歳」を除いて男性の割合が女性を上回っています。一方、『6～8時間のサービス希望』では、「84歳以下」で女性の割合が男性より高いものの、「85歳以上」では男性が高くなります。



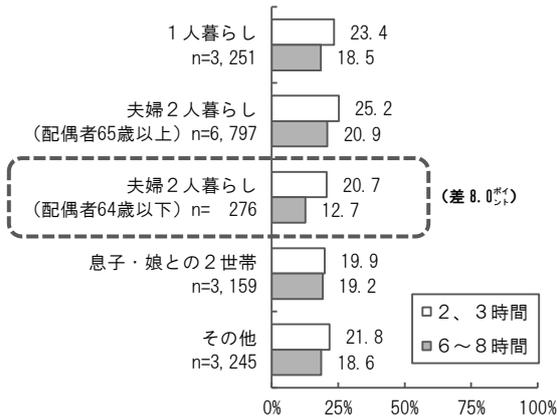
- 軽度認定者では、『2、3時間のサービス希望』は、「75～79歳」を除いて男性の割合が女性を上回っています。一方、『6～8時間のサービス希望』では、男性はいずれの年齢階級も3割前後と横ばいであるのに対し、女性は「85歳以上」で大きく上昇しています。



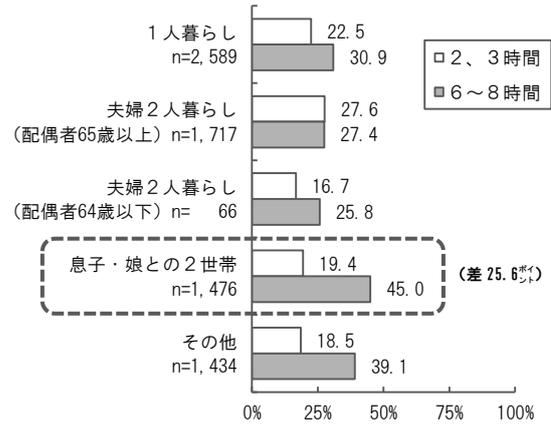
●家族形態別に短時間・長時間の利用希望をみると、一般高齢者ではいずれの家族形態でも『6～8時間のサービス希望』より『2、3時間のサービス希望』の割合が高く、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」ではその差が8.0ポイントと最も高くなっています。

一方、軽度認定者では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」以外の家族形態で、『2、3時間のサービス希望』より『6～8時間のサービス希望』の割合が高く、「息子・娘との2世帯」ではその差が25.6ポイントと最も高くなっています。

《デイサービス短時間・長時間別利用希望者の家族形態（一般高齢者）》



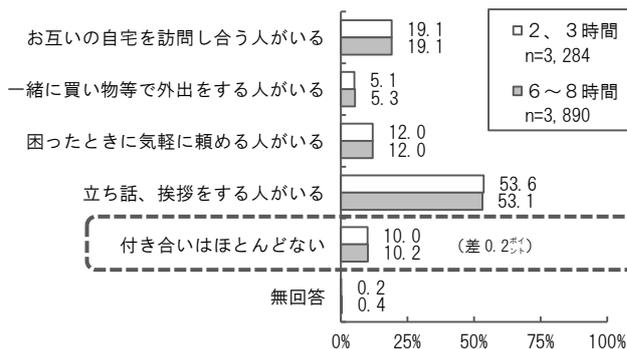
《デイサービス短時間・長時間別利用希望者の家族形態（軽度認定者）》



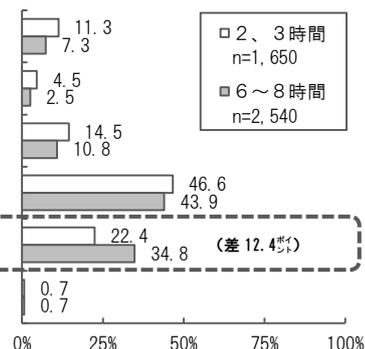
●地域の人との付き合い方を短時間・長時間の利用希望別にみると、一般高齢者では『2、3時間のサービス希望』、『6～8時間のサービス希望』でほとんど差はない状況です。

一方、軽度認定者では「付き合いはほとんどない」と回答した方は、『2、3時間のサービス希望』(22.4%)より『6～8時間のサービス希望』(34.8%)で12.4ポイント高くなっています。

《デイサービス短時間・長時間別利用希望者の地域の人との付き合い方の状況（一般高齢者）》



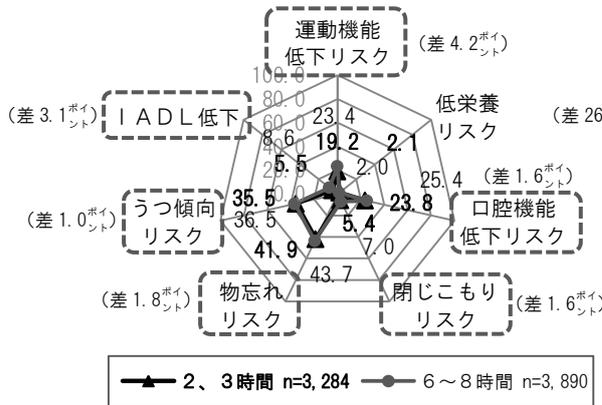
《デイサービス短時間・長時間別利用希望者の地域の人との付き合い方の状況（軽度認定者）》



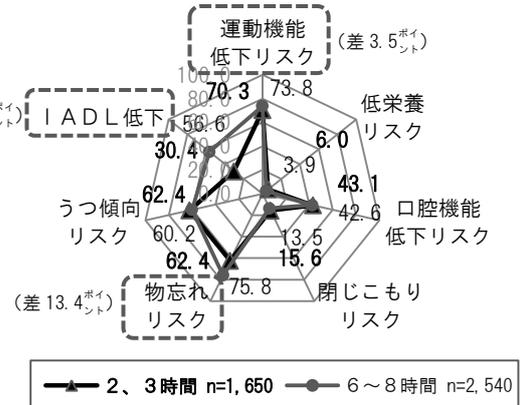
●7項目リスク指標において短時間・長時間の利用希望割合の差をみると、一般高齢者では『6～8時間のサービス希望』で「低栄養リスク」を除く6項目の該当割合が『2、3時間のサービス希望』より高く、その差は「運動機能低下リスク」で4.2ポイント、「IADL低下」で3.1ポイント、「物忘れリスク」で1.8ポイント、「口腔機能低下リスク」「閉じこもりリスク」で各1.6ポイント、「うつ傾向リスク」で1.0ポイントとなっています。

一方、軽度認定者では「IADL低下」「物忘れリスク」「運動機能低下リスク」の該当割合が『2、3時間のサービス希望』より『6～8時間のサービス希望』で高く、その差は「IADL低下」で26.2ポイント、「物忘れリスク」で13.4ポイント、「運動機能低下リスク」で3.5ポイントとなっています。

《デイサービス短時間・長時間別利用希望者の7項目リスク指標該当状況(一般高齢者)》



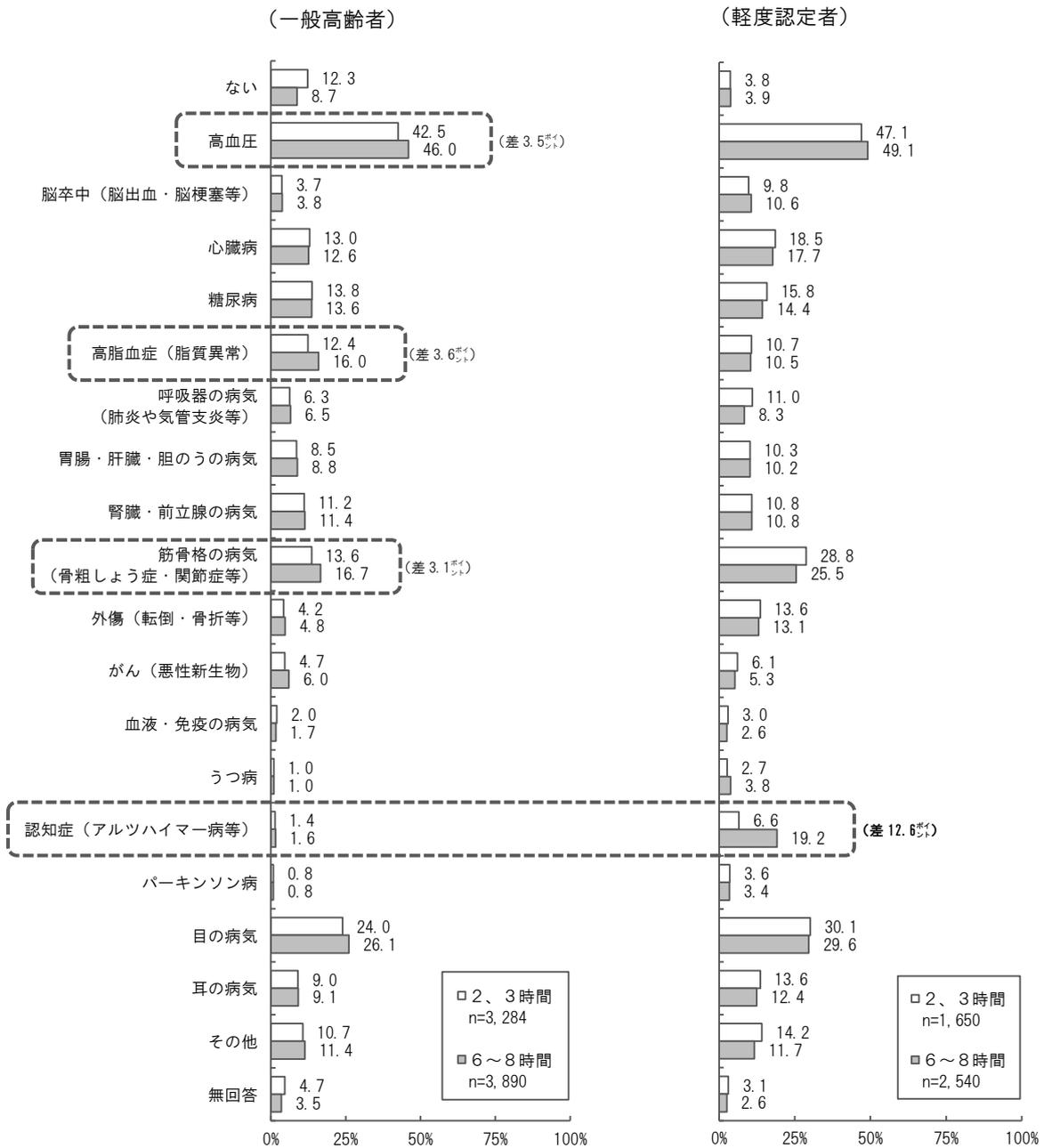
《デイサービス短時間・長時間別利用希望者の7項目リスク指標該当状況(軽度認定者)》



●一般高齢者のデイサービス利用希望者の疾病状況をみると、『6～8時間のサービス希望』で「心臓病」「糖尿病」「血液・免疫の病気」「うつ病」「パーキンソン病」以外の疾病の罹患割合が『2、3時間のサービス希望』より高くなっています。特に「高脂血症（脂質異常）」（差3.6^{ポイント}）、「高血圧」（差3.5^{ポイント}）、「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）」（差3.1^{ポイント}）でその差が大きくなっています。

一方、軽度認定者では『2、3時間のサービス希望』と『6～8時間のサービス希望』で、各疾病の罹患割合に大きな差はない状況ですが、「認知症（アルツハイマー病等）」では『2、3時間のサービス希望』（6.6%）の罹患割合が『6～8時間のサービス希望』（19.2%）を12.6^{ポイント}上回っています。

《デイサービス(通所サービス)の利用希望者の疾病状況》



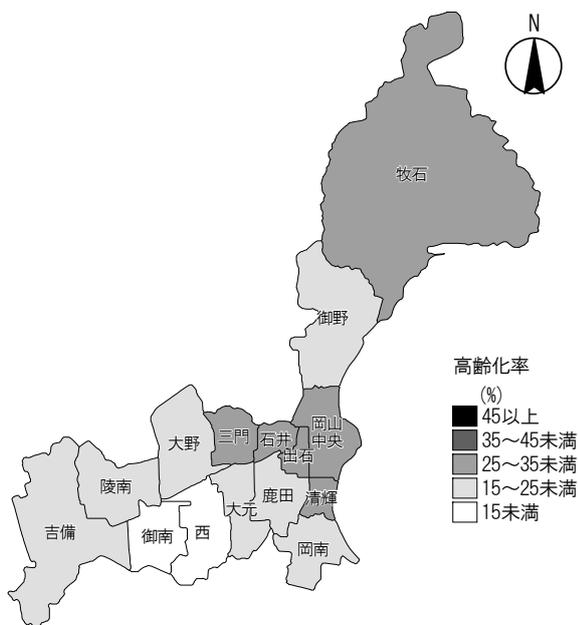
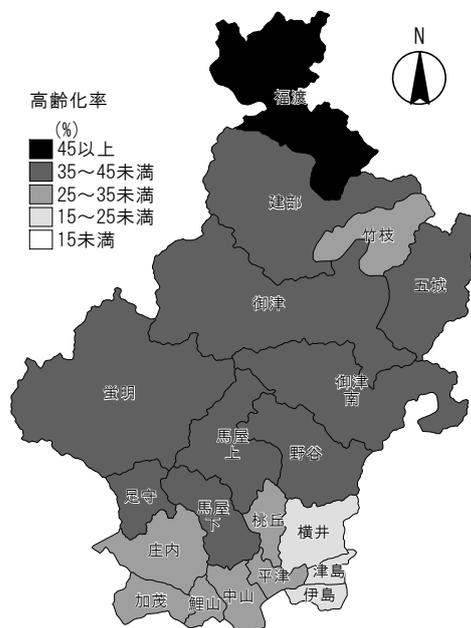
IV 後期高齢者からみた各小学校区の地域特性

① 高齢化率^{※1}の状況

市全体の高齢化率：25.8%

福祉事務所所管区域「北区北」

○北区北の高齢化率は、福渡・蛍明・馬屋上・五城・建部・野谷・馬屋下・御津南・御津・足守学区が35%を超え高く、横井・伊島・津島学区が25%未満と低い状況です。

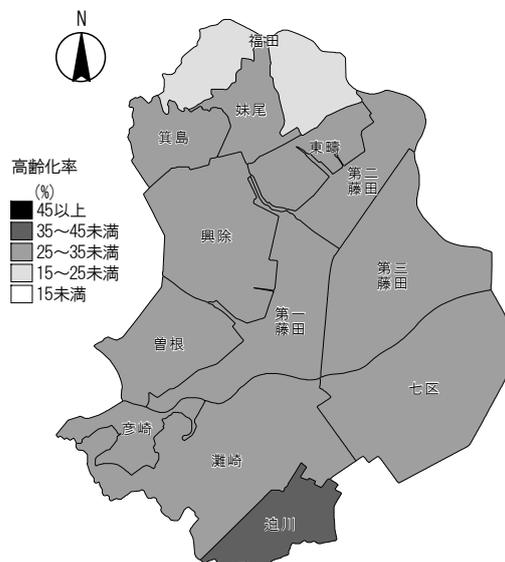


福祉事務所所管区域「北区中央」

○北区中央の高齢化率は、35%を超える小学校区はなく、岡南・御野・大野・吉備・鹿田・陵南・大元・西・御南学区が25%未満と低い状況です。

福祉事務所所管区域「南区西」

○南区西の高齢化率は、迫川学区が35%を超え高く、福田学区が25%未満と低い状況です。



※1 ここでの高齢化率とは、65歳以上人口が総人口に占める割合をいう。

◆ 後期高齢化率の状況

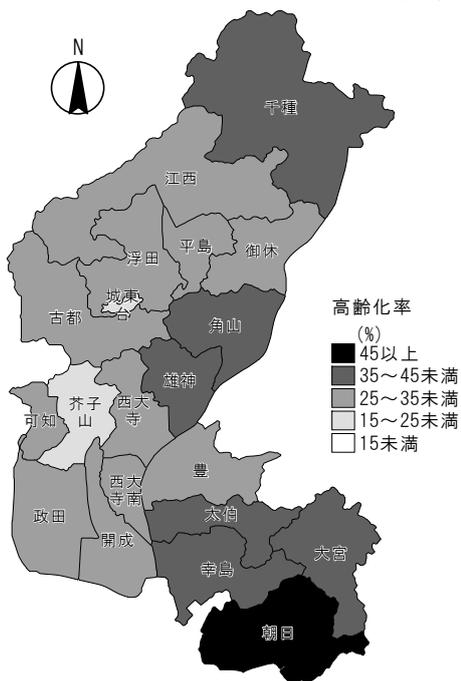
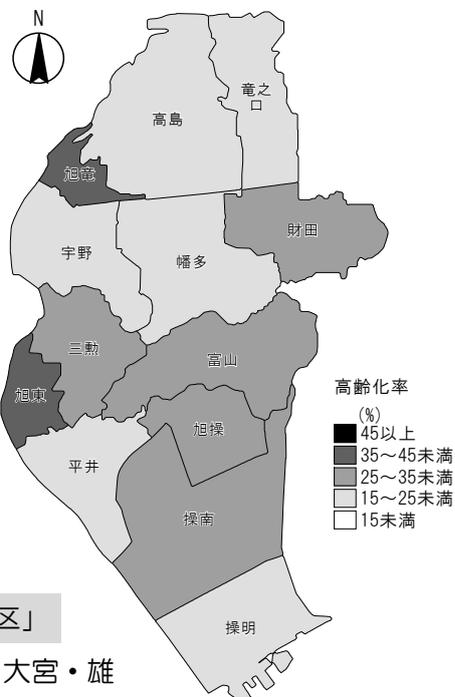
市全体をみると、北区北の福渡小学校区で後期高齢化率が31.1%と最も高く、北区中央の西小学校区が5.8%と最も低い状況です。北区北では、このほか6小学校区が20%を超えており、後期高齢化率が高い小学校区が最も多い状況です。一方、北区中央ではほか3小学校区が10%未満と割合が低い小学校区が多くなっています。

◆ 高齢化率の状況

市全体をみると、北区北の福渡小学校区で高齢化率が50.1%と最も高く、北区中央の西・御南小学校区が13.3%と最も低い状況です。北区北では、このほか9小学校区が35%を超えており、高齢化率が高い小学校区が最も多くなっています。一方、北区中央ではほか7小学校区が25%未満と割合が低い小学校区が多くなっています。

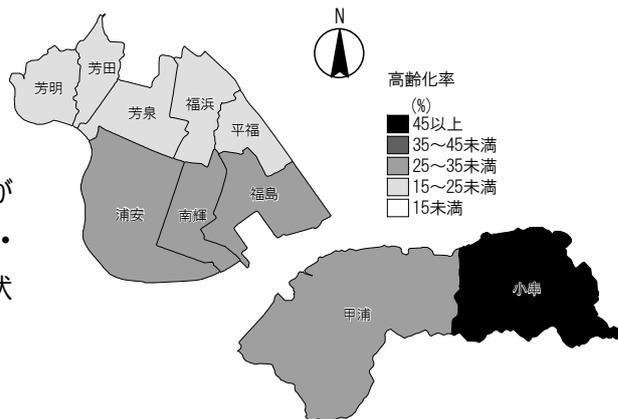
福祉事務所所管区域「中区」

○中区の高齢化率は、旭竜・旭東学区が35%を超え高く、幡多・高島・平井・竜之口・宇野・操明学区が25%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「東区」

○東区の高齢化率は、朝日・大宮・雄神・角山・幸島・太伯・千種学区が35%を超え高く、城東台・芥子山学区が25%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「南区南」

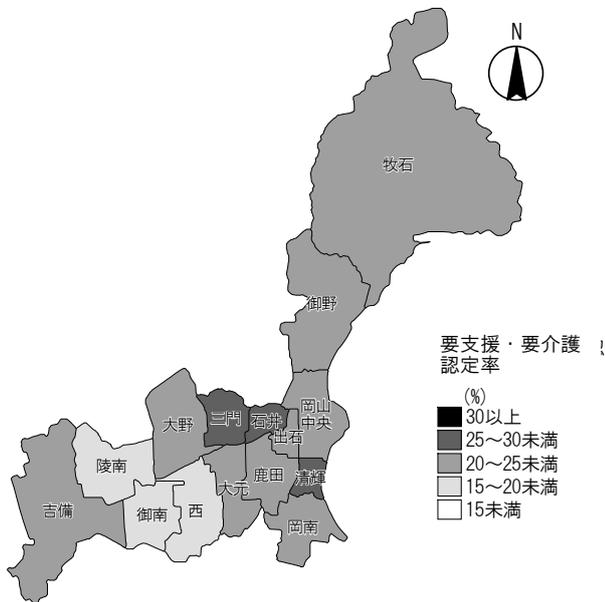
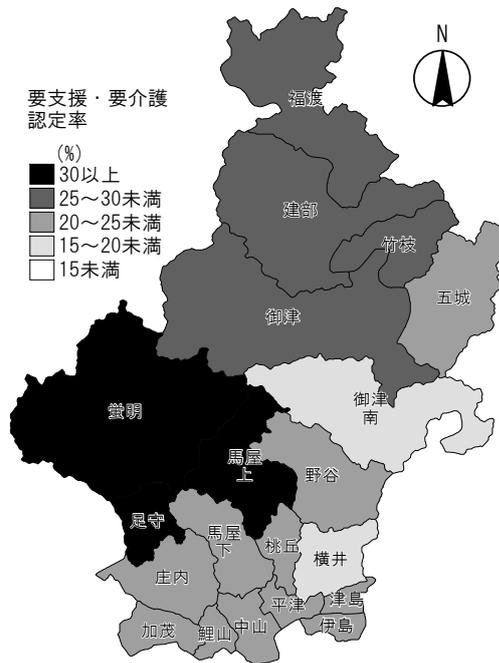
○南区南の高齢化率は、小串学区が35%を超え高く、平福・福浜・芳泉・芳明・芳田学区が25%未満と低い状況です。

② 要支援・要介護認定率^{※2}の状況

市全体の要支援・要介護認定率：21.2%

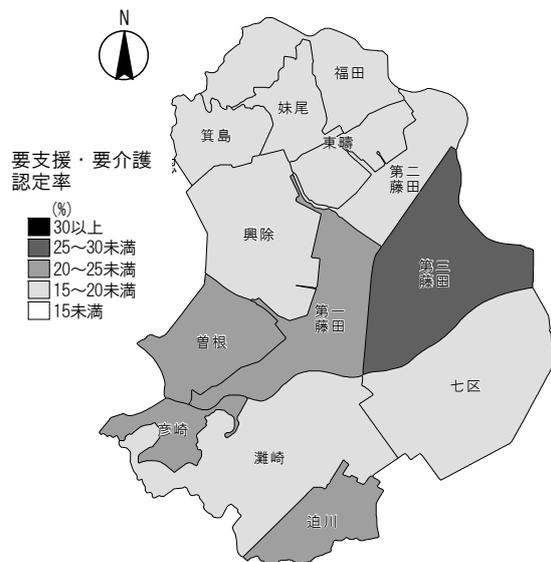
福祉事務所所管区域「北区北」

○北区北の要支援・要介護認定率は、
 蛭明・足守・馬屋上・福渡・竹枝・
 御津・建部学区が25%を超え高く、
 御津南・横井学区が20%未満と低
 い状況です。



福祉事務所所管区域「北区中央」

○北区中央の要支援・要介護認定率は、清
 輝・石井・三門学区が25%を超え高く、
 御南・陵南・西学区が20%未満と低い
 状況です。



福祉事務所所管区域「南区西」

○南区西の要支援・要介護認定率は、
 第三藤田学区が25%を超え高く、
 東郷・箕島・七区・妹尾・興除・灘
 崎・福田・第二藤田学区が20%未
 満と低い状況です。

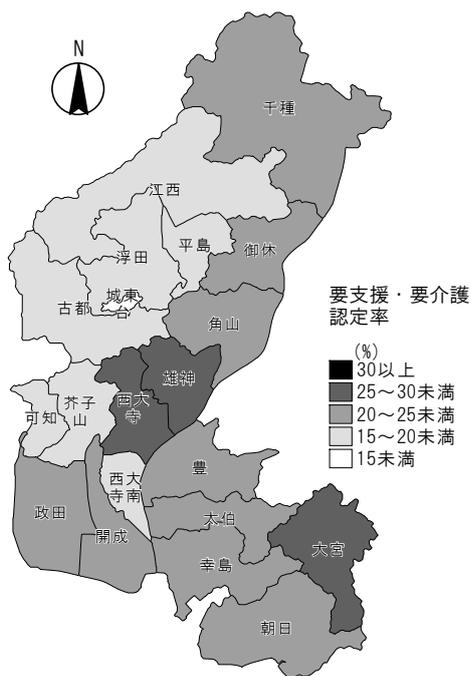
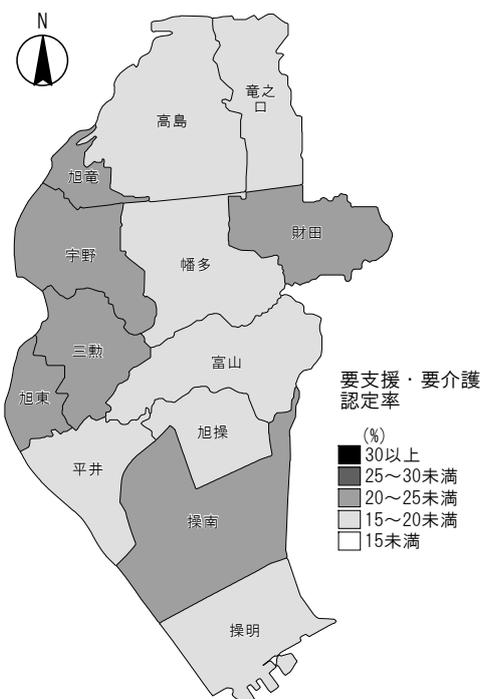
^{※2}要支援・要介護認定率とは、被保険者に対する要支援・要介護認定者の割合。ここでは65歳以上の高齢者に対する要支援・要介護認定者の割合をいう。

◆ 要支援・要介護認定率の状況

市全体をみると、北区北の蛸明小学校区で要支援・要介護認定率が34.3%と最も高く、東区の城東台小学校区が14.0%と最も低い状況です。北区北では、このほか6小学校区が25%を超えており、要支援・要介護認定率が高い小学校区が最も多い状況です。一方、東区・南区西では8小学校区が20%未満と割合が低い小学校区が多くなっています。

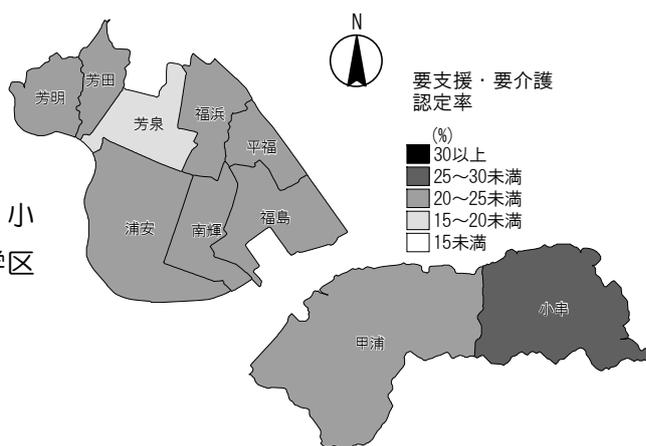
福祉事務所所管区域「中 区」

○中区の要支援・要介護認定率は、25%を超える学区はなく、高島・平井・操明・旭操・富山・幡多・竜之口学区が20%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「東 区」

○東区の要支援・要介護認定率は、大宮・西大寺・雄神学区が25%を超え高く、西大寺南・可知・古都・江西・芥子山・平島・浮田・城東台学区が20%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「南区南」

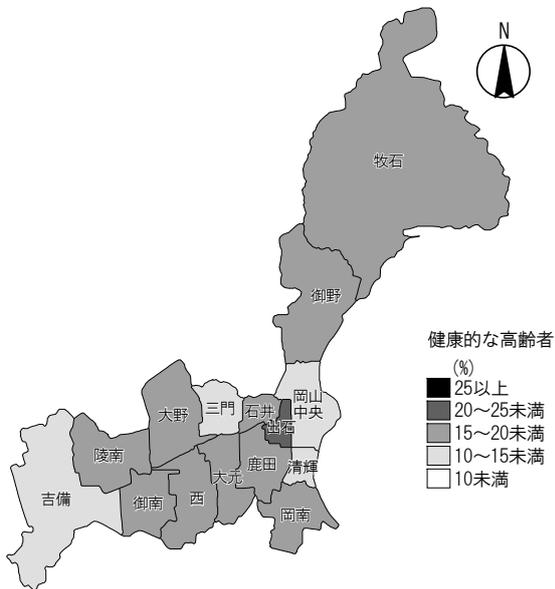
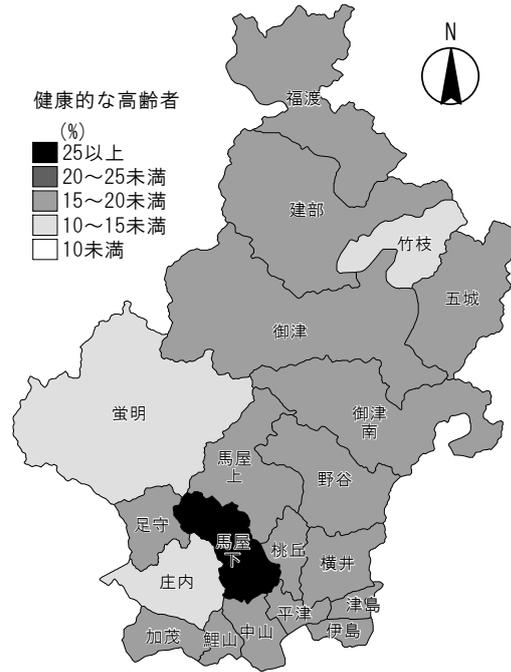
○南区南の要支援・要介護認定率は、小串学区が25%を超え高く、芳泉学区が20%未満と低い状況です。

③ 健康的な高齢者^{※3}の状況

市全体の健康的な高齢者割合：17.0%

福祉事務所所管区域「北区北」

○北区北の健康的な高齢者は、馬屋下学区が20%を超え高く、蛭明・庄内・竹枝学区が15%未満と低い状況です。

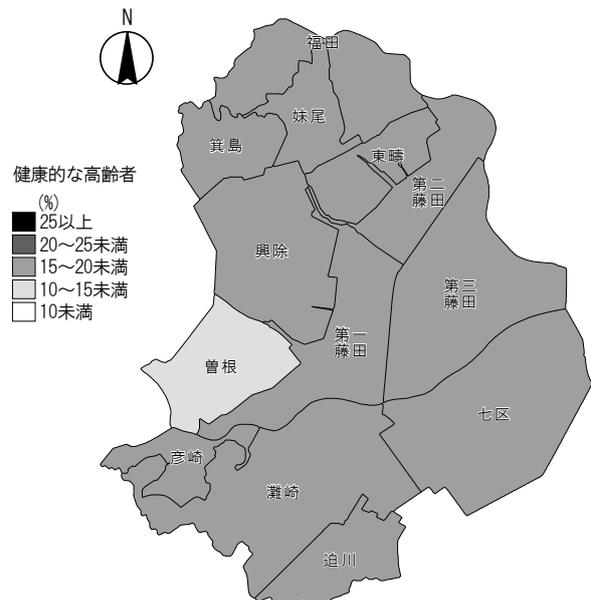


福祉事務所所管区域「北区中央」

○北区中央の健康的な高齢者は、出石学区が20%を超え高く、清輝・岡山中央・三門・吉備学区が15%未満と低い状況です。

福祉事務所所管区域「南区西」

○南区西の健康的な高齢者は、20%を超える小学校区はなく、曾根学区が15%未満と低い状況です。



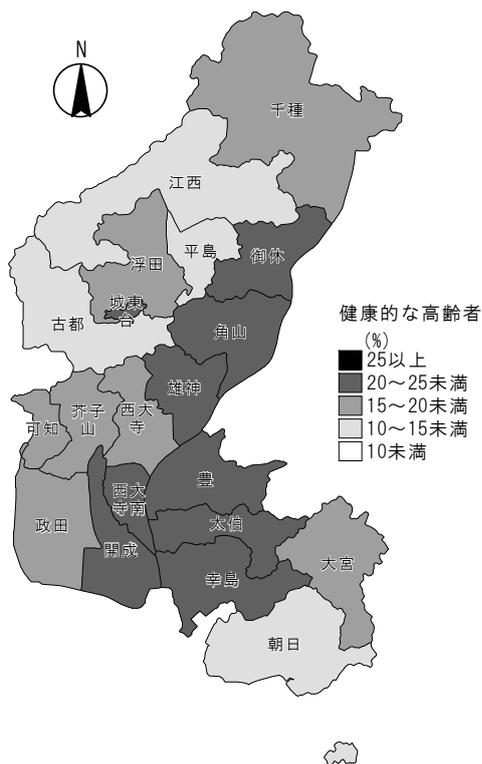
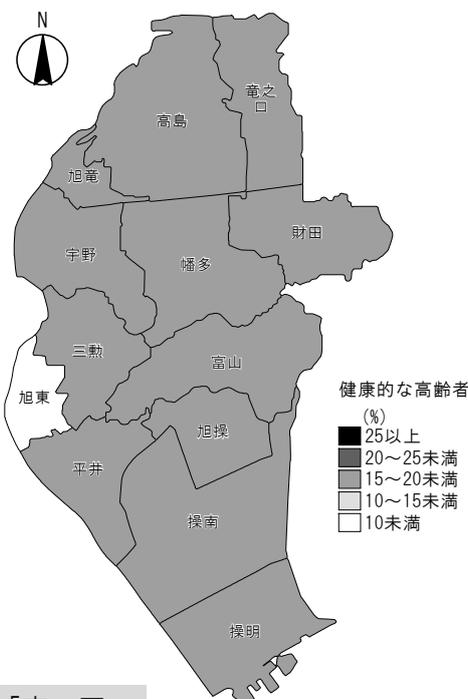
※3 健康的な高齢者とは、病気があっても、自身の身体能力により自立した日常生活を営む高齢者をいう。

◆ 健康的な高齢者の状況

市全体をみると、北区北の馬屋下小学校区で健康的な高齢者の割合が 25.0%と最も高く、中区圏域の旭東小学校区が 8.7%と最も低い状況です。東区では、9小学校区が 20%を超えており、健康的な高齢者割合が高い小学校区が最も多い状況です。一方、北区中央・東区では 4小学校区が 15%未満と割合が低い小学校区が多くなっています。

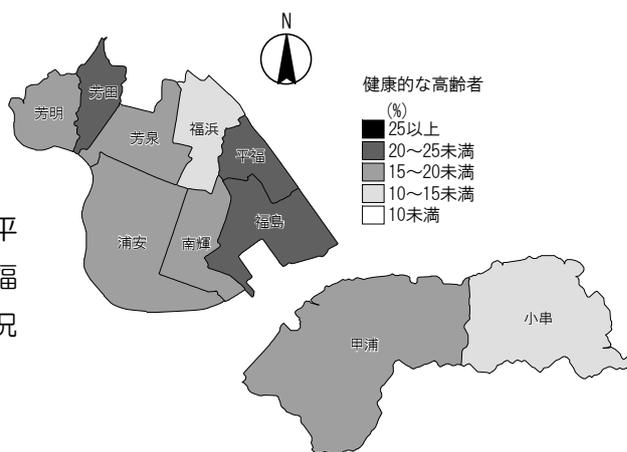
福祉事務所所管区域「中区」

○中区の健康的な高齢者は、20%を超える小学校区はなく、旭東学区が 15%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「東区」

○東区の健康的な高齢者は、豊・角山・西大寺南・幸島・城東台・雄神・御休・太伯・開成学区が20%を超え高く、江西・朝日・古都・平島学区が15%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「南区南」

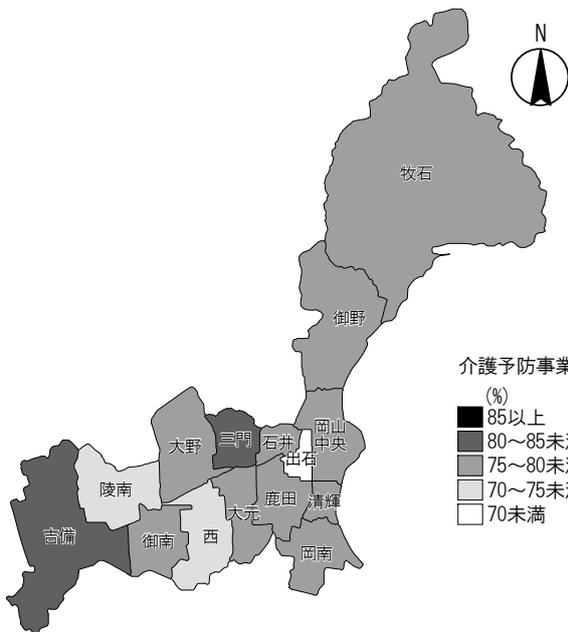
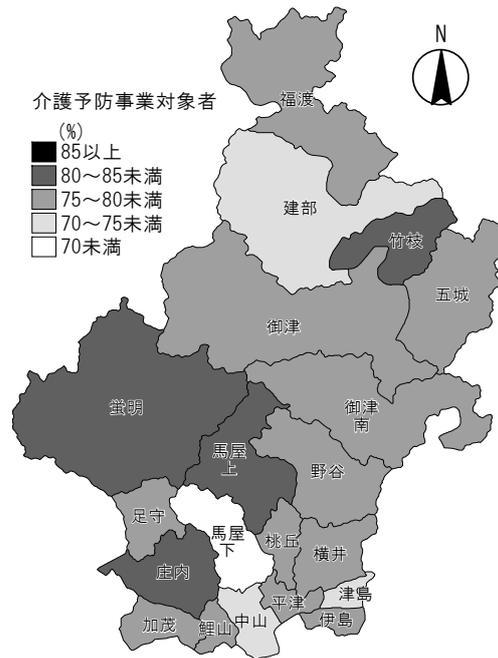
○南区南の健康的な高齢者は、芳田・平福・福島学区が20%を超え高く、福浜・小串学区が15%未満と低い状況です。

④ 介護予防事業対象者^{※4}の状況

市全体の介護予防事業対象者割合：76.5%

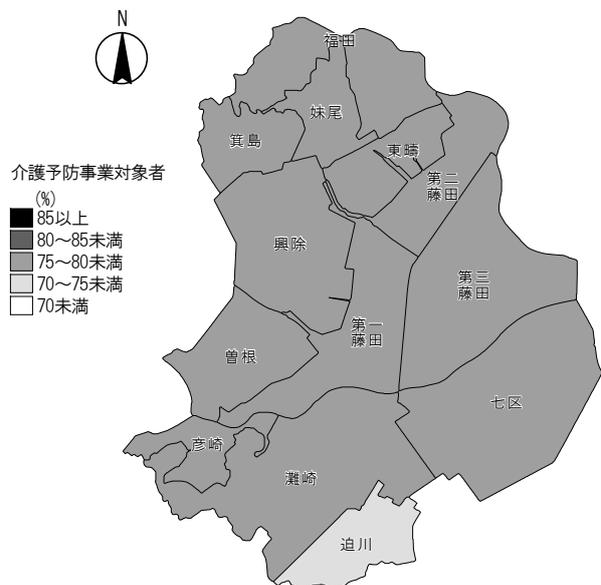
福祉事務所所管区域「北区北」

○北区北の介護予防事業対象者は、庄内・竹枝・蛍明・馬屋上学区が80%を超え高く、建部・中山・津島・馬屋下学区が75%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「北区中央」

○北区中央の介護予防事業対象者は、三門・吉備学区で80%を超え高く、陵南・西・出石学区が75%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「南区西」

○南区西の介護予防事業対象者は、80%を超える小学校区はなく、迫川学区が75%未満と低い状況です。

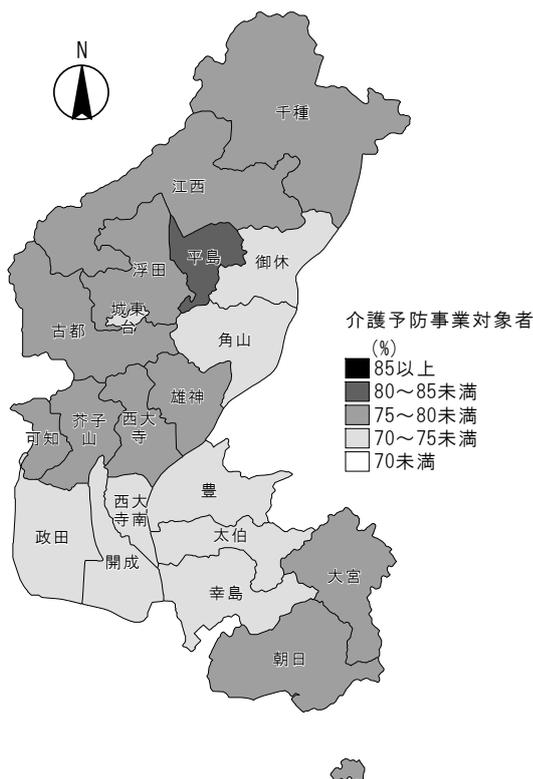
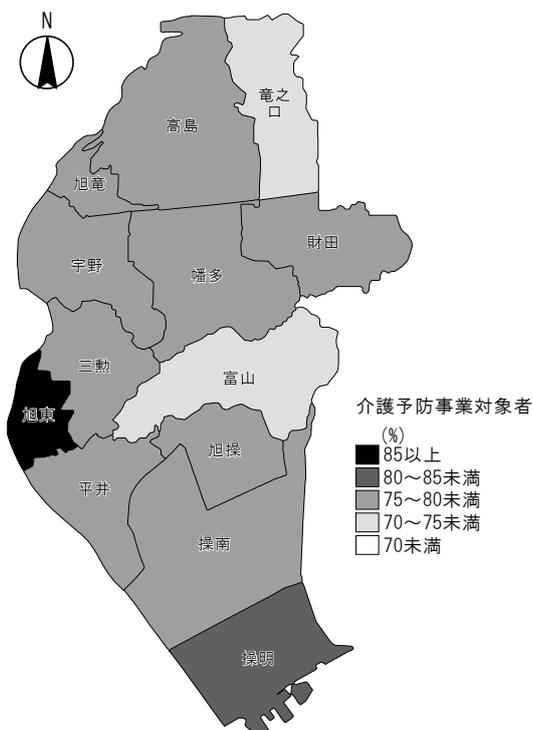
※4 介護予防事業対象者とは、虚弱な高齢者から要介護状態になることを予防するために、介護予防事業の参加勧奨の対象となる高齢者をいう。

◆ 介護予防事業対象者の状況

市全体をみると、中区の旭東小学校区で介護予防事業対象者割合が85.6%と最も高く、北区北の馬屋下小学校区が66.5%と最も低い状況です。北区北では、4小学校区が80%を超えており、介護予防事業対象者割合が高い小学校区が最も多い状況です。一方、東区では9小学校区が75%未満と割合が低い小学校区が多くなっています。

福祉事務所所管区域「中区」

○中区の介護予防事業対象者は、旭東・操明学区が80%を超え高く、竜之口・富山学区が75%未満と低い状況です。

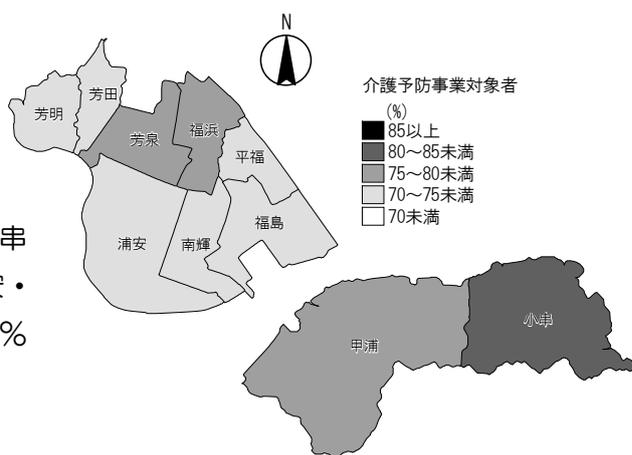


福祉事務所所管区域「東区」

○東区の介護予防事業対象者は、平島学区が80%を超え高く、政田・幸島・太伯・開成・城東台・御休・角山・西大寺南・豊学区が75%未満と低い状況です。

福祉事務所所管区域「南区南」

○南区南の介護予防事業対象者は、小串学区が80%を超え高く、南輝・浦安・芳明・福島・芳田・平福学区が75%未満と低い状況です。

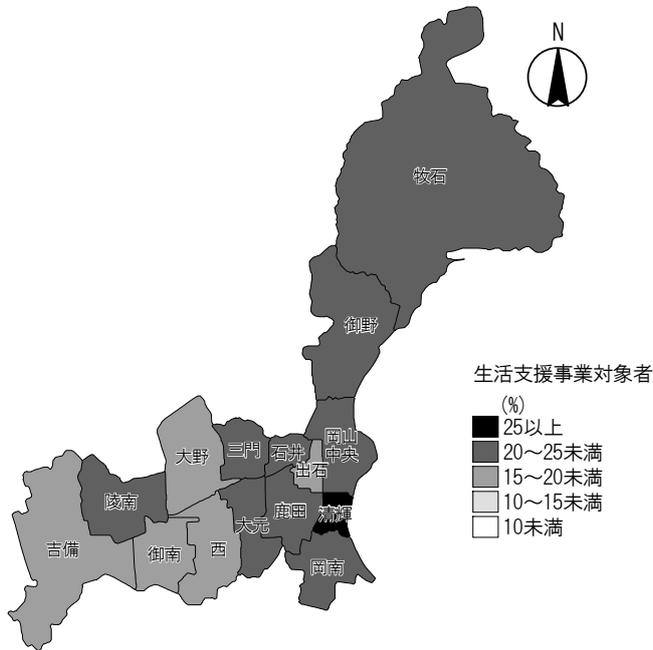
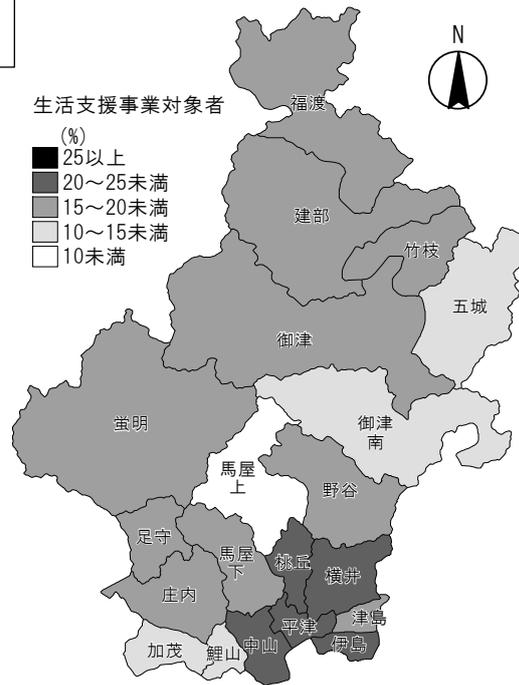


⑤ 生活支援事業対象者^{※5}の状況

市全体の生活支援事業対象者割合：18.7%

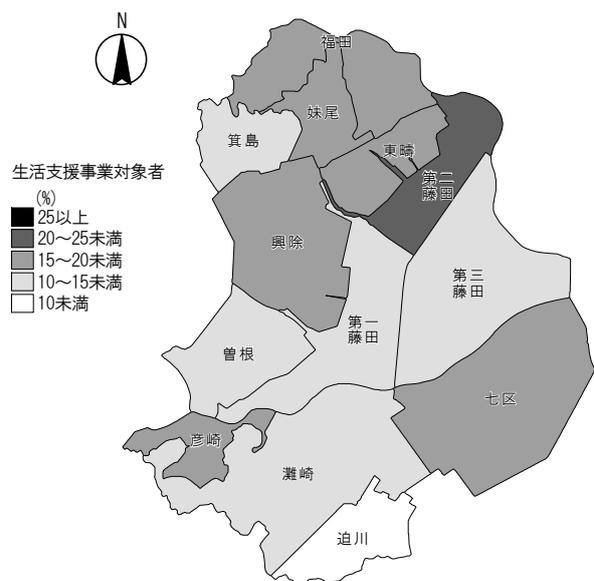
福祉事務所所管区域「北区北」

○北区北の生活支援事業対象者は、25%を超える小学校区はなく、加茂・御津南・五城・鯉山・馬屋上学区が15%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「北区中央」

○北区中央の生活支援事業対象者は、清輝学区は25%を超え高く、15%未満の学区はない状況です。



福祉事務所所管区域「南区西」

○南区西の生活支援事業対象者は、25%を超える小学校区はなく、灘崎・曾根・箕島・第一藤田・第三藤田・迫川学区が15%未満と低い状況です。

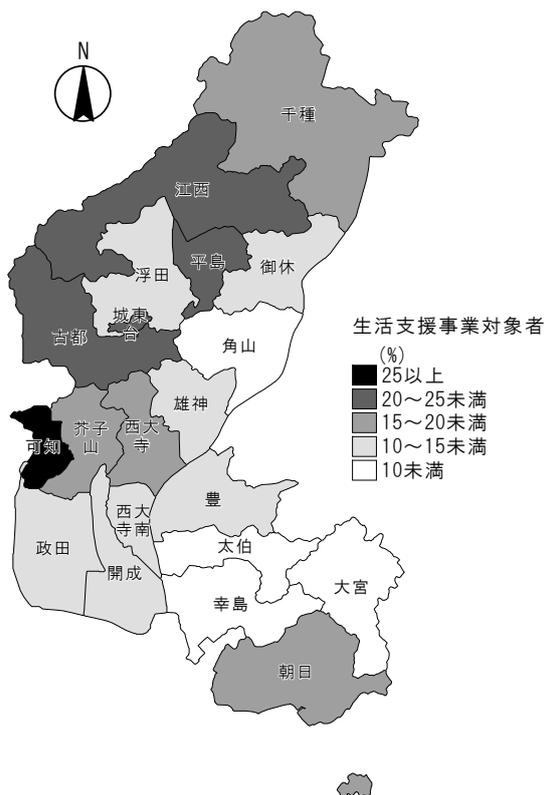
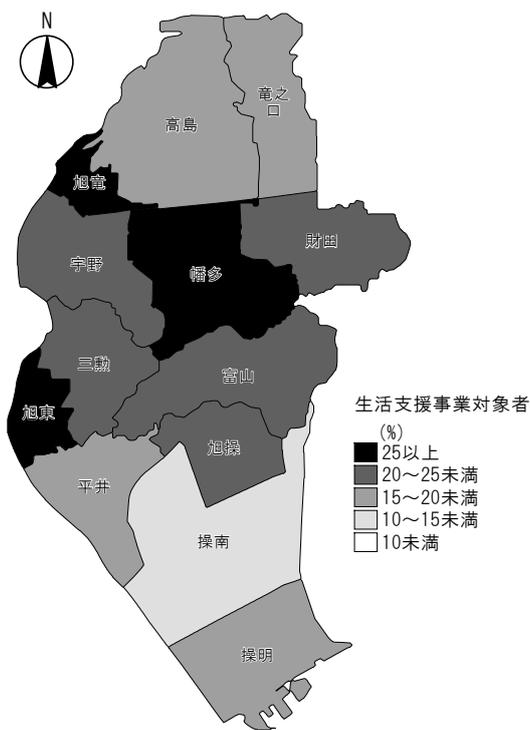
^{※5} 生活支援事業対象者とは、日常生活の中で家事の手伝いや見守り等のサービスが必要な高齢者をいう。

◆ 生活支援事業対象者の状況

市全体をみると、中区の幡多小学校区で生活支援事業対象者割合が27.8%と最も高く、北区北の馬屋上小学校区が4.8%と最も低い状況です。中区では、このほか2小学校区が25%を超えており、生活支援事業対象者割合が高い小学校区が最も多い状況です。一方、東区では11小学校区が15%未満と割合が低い小学校区が多くなっています。

福祉事務所所管区域「中区」

○中区の生活支援事業対象者は、幡多・旭竜・旭東学区が25%を超え高く、操南学区が15%未満と低い状況です。

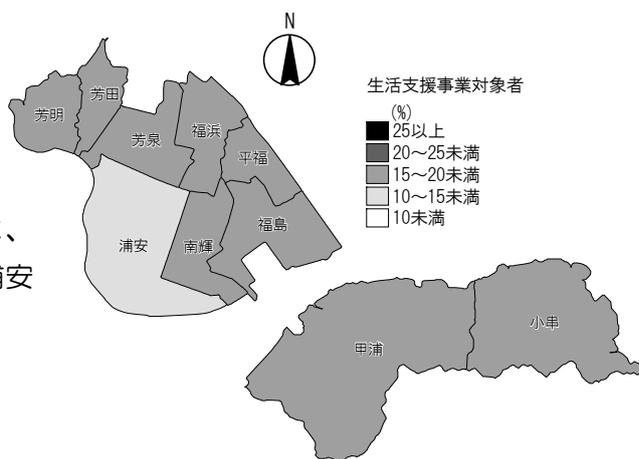


福祉事務所所管区域「東区」

○東区の生活支援事業対象者は、可知学区が25%を超え高く、西大寺南・御休・豊・雄神・開成・浮田・政田・太伯・幸島・大宮・角山学区が15%未満と低い状況です。

福祉事務所所管区域「南区南」

○南区南の生活支援事業対象者は、25%を超える小学校区はなく、浦安学区が15%未満と低い状況です。

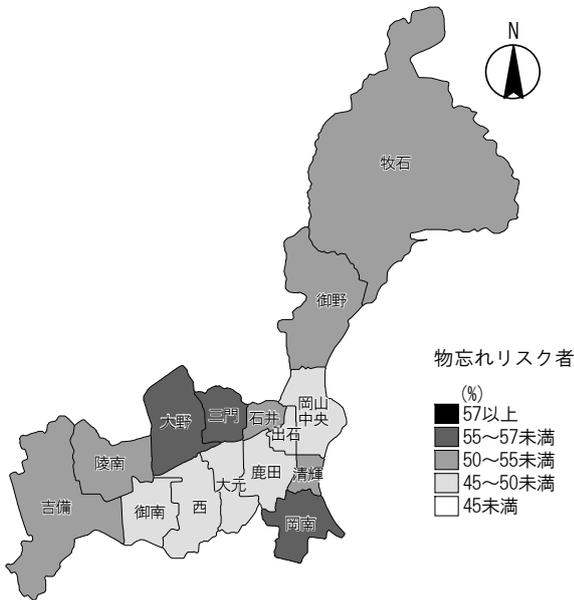
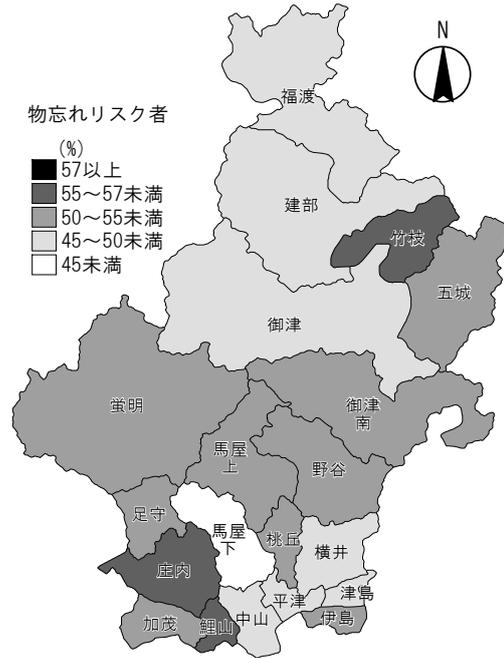


⑥ 物忘れリスク者※6の状況

市全体の物忘れリスク者割合：51.6%

福祉事務所所管区域「北区北」

○北区北の物忘れリスク者は、庄内・竹枝・鯉山学区が55%を超え高く、馬屋下学区が45%未満と低い状況です。

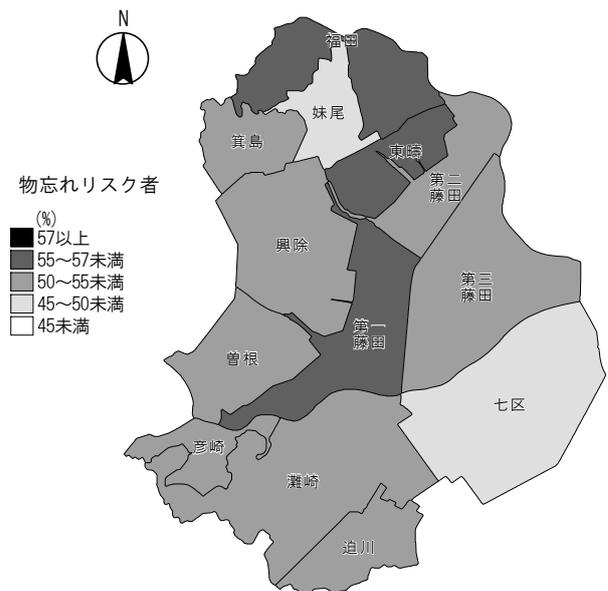


福祉事務所所管区域「北区中央」

○北区中央の物忘れリスク者は、大野・岡南・三門学区が55%を超え高く、45%未満の学区はない状況です。

福祉事務所所管区域「南区西」

○南区西の物忘れリスク者は、第一藤田・東疇・福田学区が55%を超え高く、45%未満の学区はない状況です。



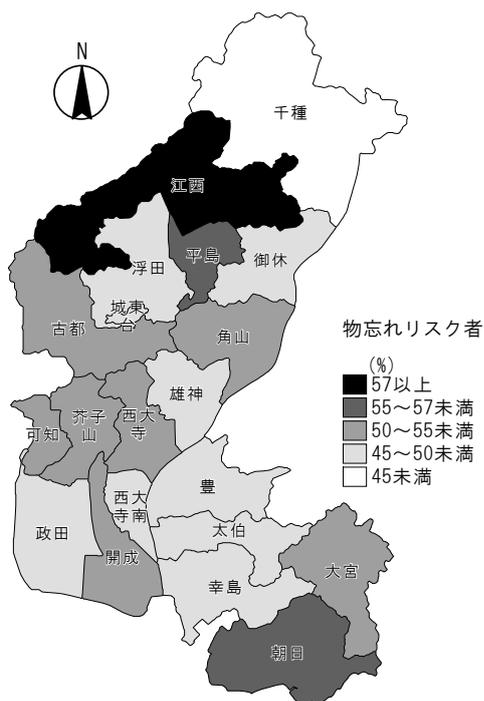
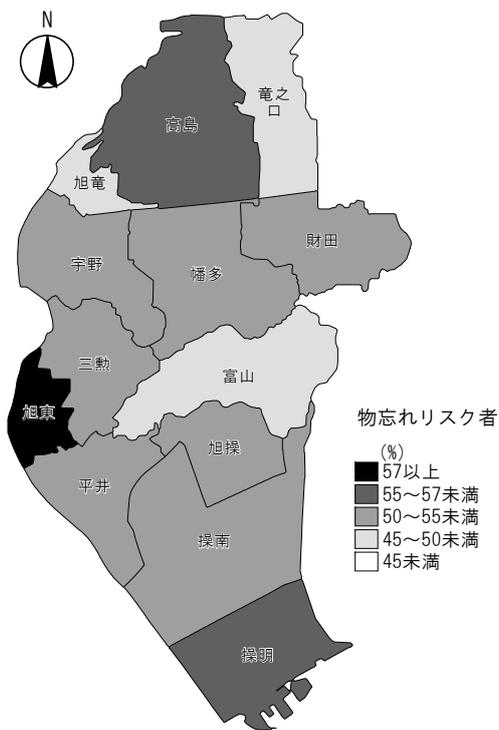
※6 物忘れリスク者とは、主な症状として「記憶障害」「失語」「失行」「失認」「遂行機能障害」のいずれかに該当した高齢者をいう。

◆ 物忘れリスク者の状況

市全体をみると、中区の旭東小学校区で物忘れリスク者割合が57.4%と最も高く、東区の千種小学校区が42.2%と最も低い状況です。いずれも物忘れリスク者が55%を超える割合の高い小学校区は3学区となっています。一方、45%未満の物忘れリスク者割合の低い小学校区は、北区北・東区でともに1学区となっています。

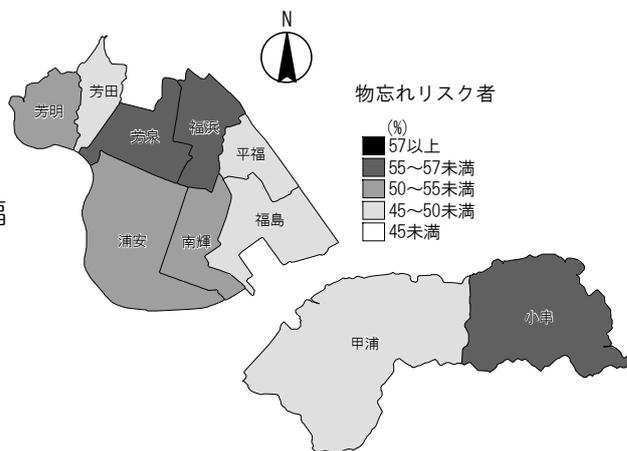
福祉事務所所管区域「中区」

○中区の物忘れリスク者は、旭東・操明・高島学区が55%を超え高く、45%未満の学区はない状況です。



福祉事務所所管区域「東区」

○東区の物忘れリスク者は、江西・平島・朝日学区が55%を超え高く、千種学区が45%未満と低い状況です。



福祉事務所所管区域「南区南」

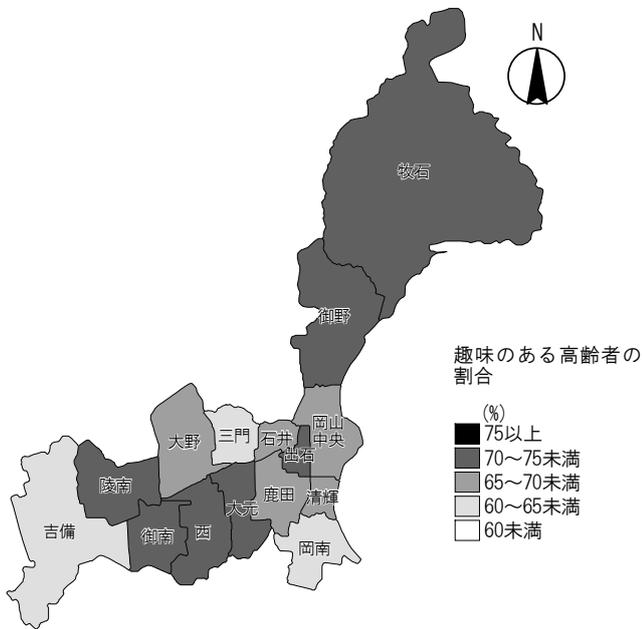
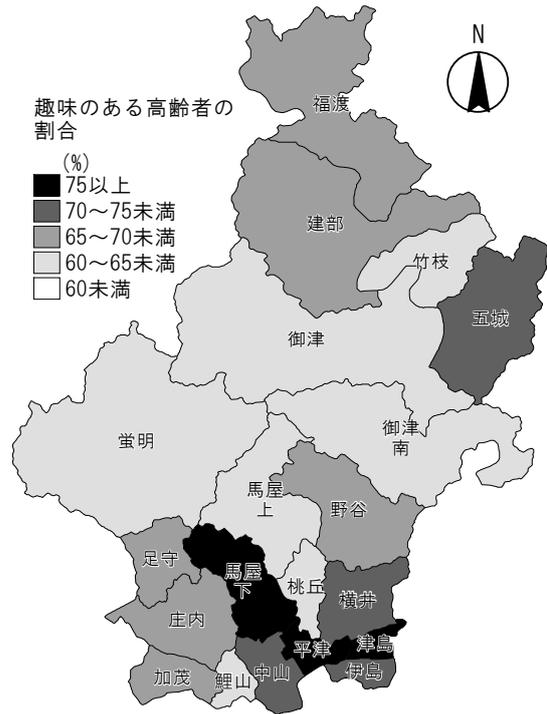
○南区南の物忘れリスク者は、小串・福浜・芳泉学区が55%を超え高く、45%未満の学区はない状況です。

⑦ 趣味のある方^{※7}の状況

市全体の趣味のある方の割合：68.9%

福祉事務所所管区域「北区北」

○北区北の趣味のある方は、平津・津島・馬屋下・横井・中山・五城・伊島学区が70%を超え高く、馬屋上・竹枝・御津・蛍明・桃丘・鯉山・御津南学区が65%未満と低い状況です。

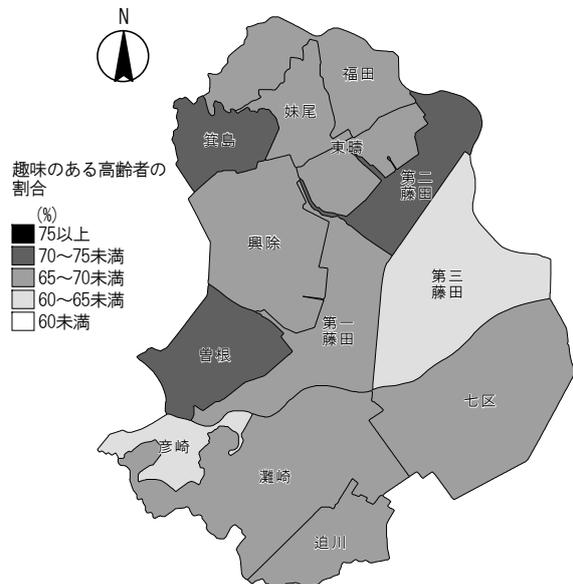


福祉事務所所管区域「北区中央」

○北区中央の趣味のある方は、牧石・陵南・御野・西・大元・出石・御南学区が70%を超え高く、吉備・三門・岡南学区が65%未満と低い状況です。

福祉事務所所管区域「南区西」

○南区西の趣味のある方は、箕島・第二藤田・曾根学区が70%を超え高く、彦崎・第三藤田学区が65%未満と低い状況です。



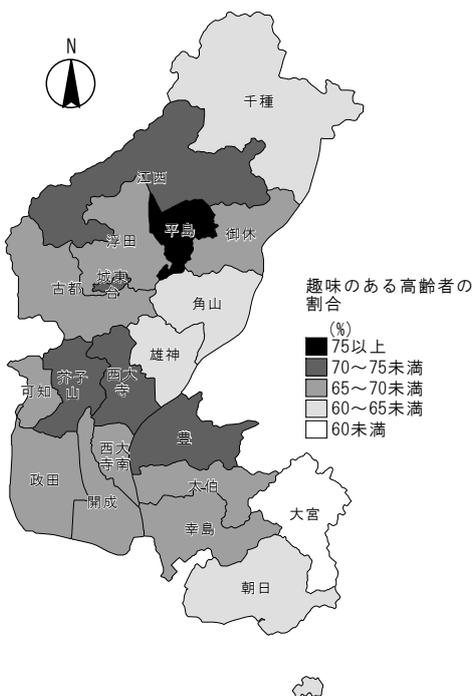
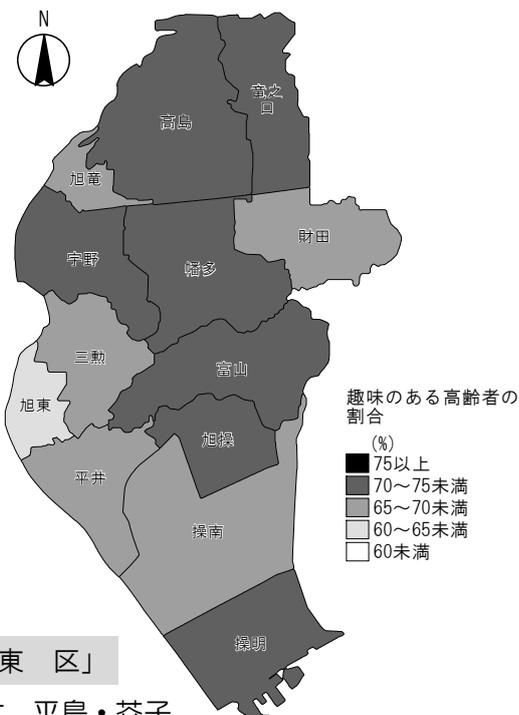
※7 趣味のある方とは、専門としてでなく、楽しみとして愛好する事柄を実践している高齢者をいう。

◆ 趣味のある方の状況

市全体をみると、北区北の平津小学校区で趣味のある高齢者割合が79.3%と最も高く、東区の大宮小学校区が57.8%と最も低い状況です。北区北・北区中央・中区では、7小学校区が70%を超えており、趣味のある高齢者割合が高い小学校区が最も多い状況です。また、北区北では7小学校区が65%未満と割合が低い小学校区も多くなっています。

福祉事務所所管区域「中区」

○中区の趣味のある方は、富山・旭操・操明・宇野・高島・幡多・竜之口学区が70%を超え高く、旭東学区が65%未満と低い状況です。

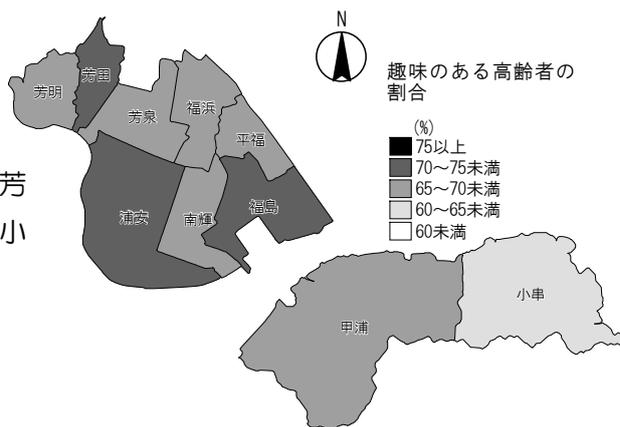


福祉事務所所管区域「東区」

○東区の趣味のある方は、平島・芥子山・豊・西大寺・江西・城東台学区が70%を超え高く、角山・千種・雄神・朝日・大宮学区が65%未満と低い状況です。

福祉事務所所管区域「南区南」

○南区南の趣味のある方は、浦安・芳田・福島学区が70%を超え高く、小串学区が65%未満と低い状況です。

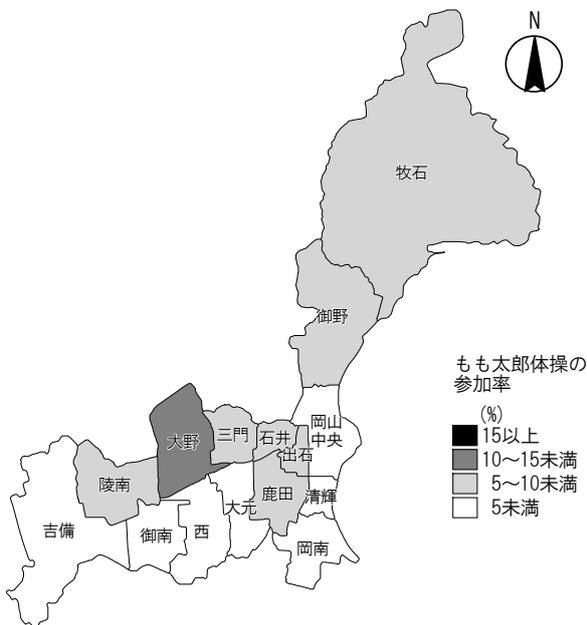
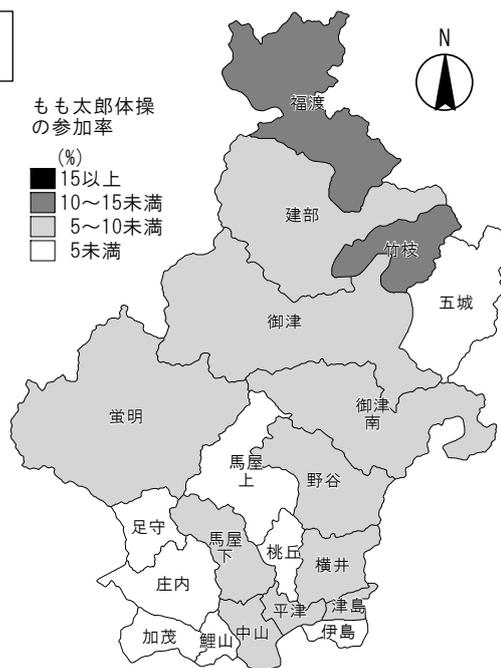


⑧ あっ晴れ！もも太郎体操^{※8}参加者の状況

市全体のあっ晴れ！もも太郎体操参加率：6.3%

福祉事務所所管区域「北区北」

○北区北のあっ晴れ！もも太郎体操参加率は、竹枝・福渡学区が10%を超え高く、庄内・足守・桃丘・加茂・伊島・五城・馬屋上・鯉山学区が5%未満と低い状況です。

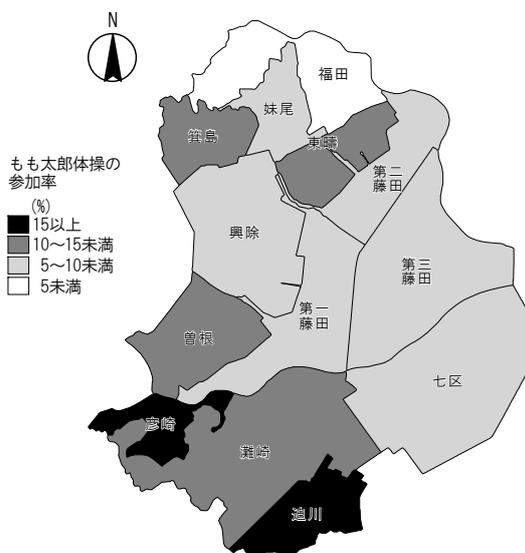


福祉事務所所管区域「北区中央」

○北区中央のあっ晴れ！もも太郎体操参加率は、大野学区が10%を超え高く、御南・岡南・岡山中央・清輝・西・大元・吉備学区が5%未満と低い状況です。

福祉事務所所管区域「南区西」

○南区西のあっ晴れ！もも太郎体操参加率は、彦崎・迫川・灘崎・箕島・東疇・曾根学区が10%を超え高く、福田学区が5%未満と低い状況です。



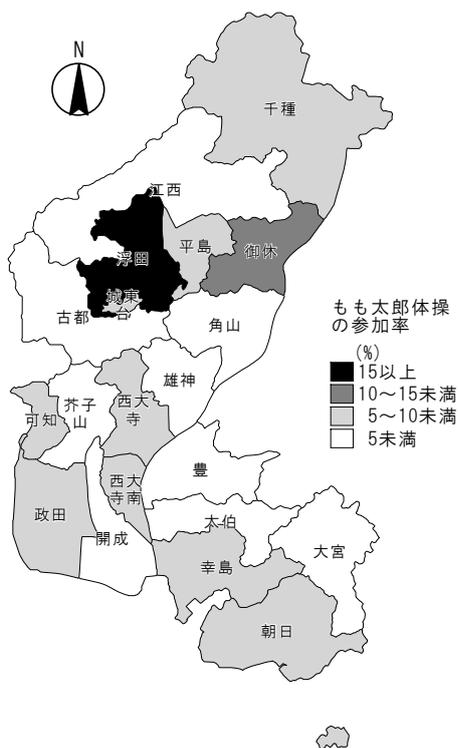
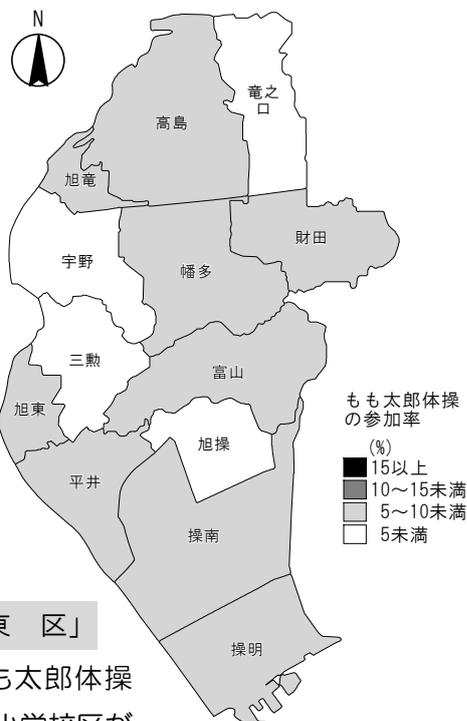
※8 あっ晴れ！もも太郎体操は、地域の方が身近な場所で行うことで、心身ともに元気になることを目的とした岡山市の体操である。体操に初めて取り組む場合は、介護予防センターの職員が訪問して効果的な体操のやり方を説明し、また、運動・口腔等についての講話も行う。

◆ あっ晴れ！もも太郎体操参加者の状況

市全体をみると、南区西の彦崎小学校区であっ晴れ！もも太郎体操参加率が18.3%と最も高く、東区の雄神小学校区が1.7%と最も低い状況です。南区西では、このほか5小学校区が10%を超えており、参加率が高い小学校区が最も多い状況です。一方、東区・北区北・北区中央では7～9小学校区が5%未満と割合が低い小学校区が多くなっています。

福祉事務所所管区域「中区」

○中区のあっ晴れ！もも太郎体操参加率は、10%を超える小学校区はなく、宇野・旭操・三勲・竜之口小学校区が5%未満と低い状況です。

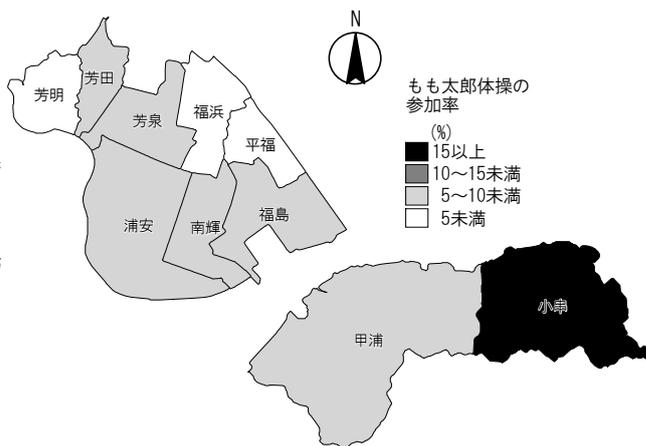


福祉事務所所管区域「東区」

○東区のあっ晴れ！もも太郎体操参加率は、浮田・御休小学校区が10%を超え高く、江西・開成・豊・太伯・古都・芥子山・大宮・角山・雄神学区が5%未満と低い状況です。

福祉事務所所管区域「南区南」

○南区南のあっ晴れ！もも太郎体操参加率は、小串学区が10%を超え高く、平福・福浜・芳明学区が5%未満と低い状況です。



岡山市 後期高齢者実態把握調査報告書

発行日 平成31年3月

発行 岡山市

編集 岡山市保健福祉局 高齢福祉部 地域包括ケア推進課

住所 〒700-8546 岡山県岡山市北区鹿田町一丁目1番1号

TEL 086-803-1246 (直通) FAX 086-803-1780

URL [http:// www.city.okayama.jp/](http://www.city.okayama.jp/)